八街市防災アセスメント調査業務

地区別防災カルテ

平成３０年３月

八街市

１．地区別防災カルテとは

病院や診療所で診察を受けるとき、医師はカルテに患者の病状や処置、経過等を記録します。患者の病状を地区の災害危険性、処置や経過を避難訓練や防災施設の整備ととらえ、防災に関する情報を記録したものが「地区別防災カルテ」になります。

地区別防災カルテには、防災マップ等には載っていない地震等の被害予測結果も掲載しています。地区ごとに被害の特徴を把握して、防災対策に役立てましょう。

２．様式について

地区別防災カルテは次の３種類の様式で構成されます。

	名称	主な内容
様式１	地区概況	基本情報、避難所・避難場所、防災課題
様式２	防災アセスメント調査	震度分布、災害実績、建物全壊率、標高
様式３	防災関連施設位置図	避難所・避難場所、主な防災関連施設

３．地区区分について

地区別防災カルテでは、市内を９小学校区に区分しています。

小学校区	区
八街東小学校	一区、七区、朝日区、富山区、大関区
朝陽小学校	文違区、住野区、藤の台区、喜望の杜区、八街・榎戸学園台区
実住小学校	二区、三区、四区、五区、六区（ほ番地、木原）、大東区、東吉田区（総武ニュータウン、691 番地２及び県道 53 号線以南で、かつ、市道２級 10 号線以西の区域を除く。）、ライオンズガーデン区
交進小学校	西林区、夕日丘区、真井原区（市道 15008 号線以北、氷川神社南側私道以北、市道 15006 号線以東の区域を除く。）
笹引小学校	六区（へ番地）、四木区（515 番地～1205 番地）、東吉田区（総武ニュータウン、691 番地２及び県道 53 号線以南で、かつ、市道２級 10 号線以西の区域）
二州小学校	四木区（515 番地～1205 番地を除く。）、滝台区、山田台区、沖区、上砂区（290～478、481 の２、482 の１、482 の２、811～857 番地）
二州小学校沖分校	沖区
川上小学校	大谷流区、小谷流区、根古谷区、岡田区、用草区、勢田区、吉倉区、砂区、上砂区（290～478、481 の２、482 の１、482 の２、811～857 番地を除く。）、希望ケ丘区、ガーデンタウン区
八街北小学校	榎戸区、泉台区、みどり台区、真井原区（市道 15008 号線以北、氷川神社南側私道以北、市道 15006 号線以東の区域）

４．基本情報の時点について

地区別防災カルテに記載されている基本情報の時点は以下のとおりです。

人口動態：平成 29 年３月末（うち高齢単独世帯数のみ：平成 27 年国勢調査）

建物構成：平成 29 年１月１日

５．地区別防災カルテの使い方

【自治会等で利用する場合】

災害発生前

①地域の危険箇所を把握
②災害の危険がある地域住民への啓発強化
③避難時の支援や避難方法・避難時期の確認
④地区内の取り組みを書き込む

【個人で利用する場合】

災害発生前

①自宅、通勤通学経路、勤務先・通学先、買い物先など、日ごろ滞在する場所や通過する場所の安全性（危険性）、災害の種類等を確認する。

②災害時の避難の必要を考える。
※災害は色々な起こり方をするので、複数のケースへの対応を考えておく。

③避難する場合、避難しない場合の両方について、その後の行動を考える。
★自宅に危険がある等、避難する必要がある場合
・いつ（どのタイミングで、色々なケースを想定）
・どこに（複数の避難所・避難場所）
・どうやって（どの道を通る、歩いて行けない場合はどうする？）
※このほか、家族との連絡手段や集合場所等を確認しておく
★自宅の方が安全なので、避難しないという場合
・孤立の可能性はあるか
・周囲に対して、無事を知らせる手段の確認
★備蓄品、備蓄場所、非常用持ち出し品の確認
※おむつ、常備薬等、家族構成によって、必要なものが変わります。

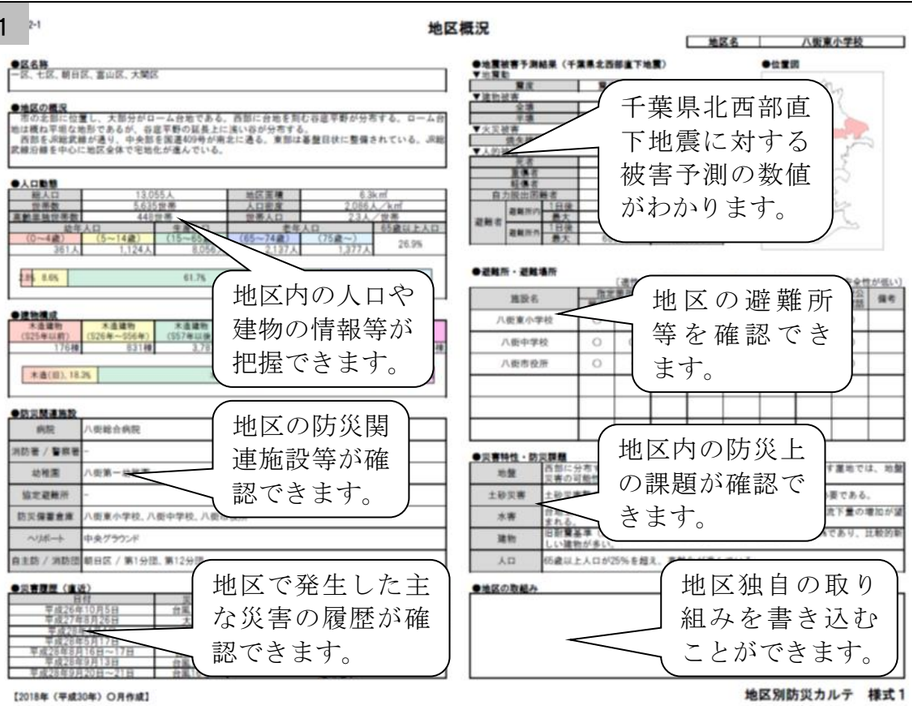
④防災関連施設位置図（様式３）に避難先・避難経路・注意事項等を余白に書き込み、「我が家の防災カルテ」を作成する。

災害時

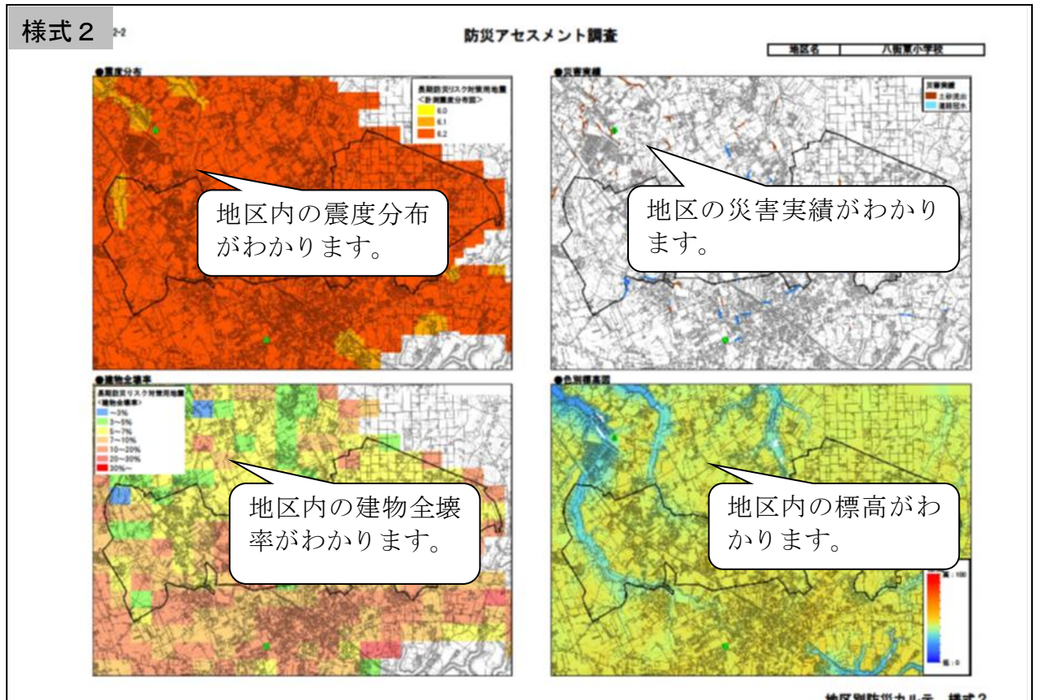
①災害発生前に準備しておいた「我が家の防災カルテ」をもとに行動する。
②大型台風の接近や豪雨災害の場合の避難行動は、気象状況と家族の体力などを考えて決める。

～地区別防災カルテの使い方～

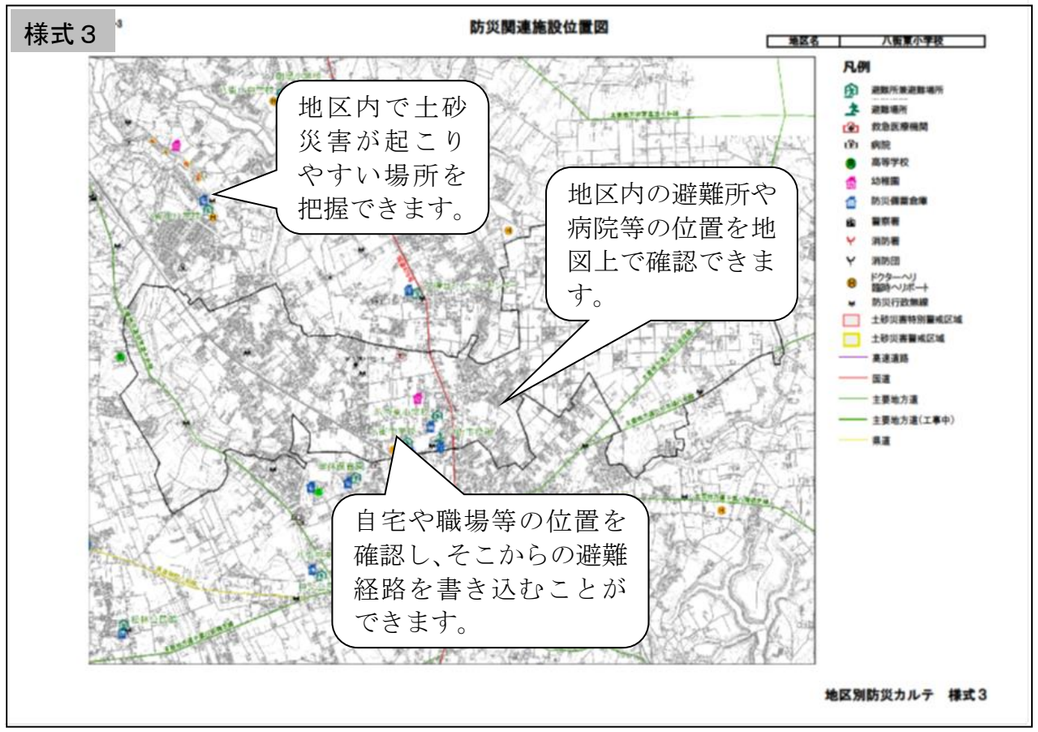
様式１



様式２



様式３



地区概況

地区名	八街東小学校

●区名称

一区、七区、朝日区、富山区、大関区

●地区の概況

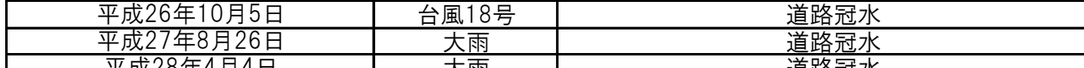
市の北部に位置し、大部分がローム台地である。西部に台地を刻む谷底平野が分布する。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。

西部をJR総武線が通り、中央部を国道409号が南北に通る。東部は碁盤目状に整備されている。JR総武線沿線を中心に地区全体で宅地化が進んでいる。

●人口動態

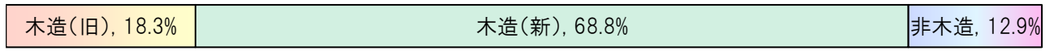
総人口	13,055人	地区面積	6.3k㎡
世帯数	5,635世帯	人口密度	2,086人／k㎡
高齢単独世帯数	448世帯	世帯人口	2.3人／世帯

幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
（0～4歳）	（5～14歳）	（15～65歳）	（65～74歳）	（75歳～）	26.9%
361人	1,124人	8,056人	2,137人	1,377人	



●建物構成

木造建物（S25年以前）	木造建物（S26年～S56年）	木造建物（S57年以後）	非木造建物（S46年以前）	非木造建物（S47年～S56年）	非木造建物（S57年以後）
176棟	831棟	3,787棟	28棟	142棟	539棟



●防災関連施設

病院	八街総合病院
消防 / 警察	-
幼稚園	八街第一幼稚園
協定避難所	-
防災備蓄倉庫	八街東小学校、八街中学校、八街市役所
ヘリポート	中央グラウンド
自主防 / 消防団	朝日区 / 第1分団、第12分団

●災害履歴（直近）

日付	災害	被害
平成26年10月5日	台風18号	道路冠水
平成27年8月26日	大雨	道路冠水
平成28年4月4日	大雨	道路冠水
平成28年5月17日	大雨	道路冠水
平成28年8月16日～17日	台風7号	土砂流出、道路冠水
平成28年9月13日	台風13号	土砂流出、道路冠水
平成28年9月20日～21日	台風16号	道路冠水

●地震被害予測結果（千葉県北西部直下地震）

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

		（市全体）
全壊	17棟	197棟
半壊	168棟	1,416棟

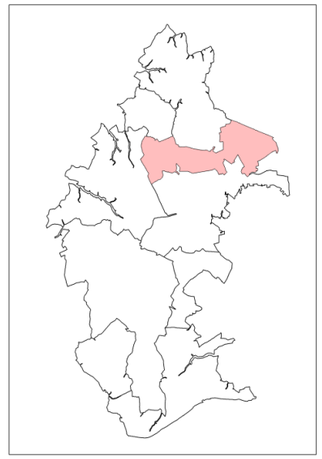
▼火災被害

焼失棟数	0棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			3人	30人
軽傷者			36人	310人
自力脱出困難者			1人	10人
避難者	避難所内	1日後	54人	470人
		最大	459人	4,000人
	避難所外	1日後	36人	310人
		最大	689人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○：安全性が高い △：条件つきで安全性がある ×：安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数(人)		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
八街東小学校	○	○	1,309	7,257	△	○	○	○	
八街中学校	○	○	1,538	15,184	○	○	○	○	
八街市役所	○	-	236	-	○	○	×	○	

●災害特性・防災課題

地盤	西部に分布する谷底平野や浅い谷の造成地、台地と低地の境をなす崖地では、地盤災害の可能性がある。また、谷底平野では液状化の可能性が高い。
土砂災害	土砂災害警戒区域は無いが、台地縁の崖地では土砂災害の注意が必要である。
水害	台地上の浅い谷などで排水不良による内水被害が発生している。流下量の増加が望まれる。
建物	旧耐震基準（昭和56年以前）の木造建物の割合が、全建物の約18%であり、比較的新しい建物が多い。
人口	65歳以上人口が25%を超え、高齢化が進んでいる。

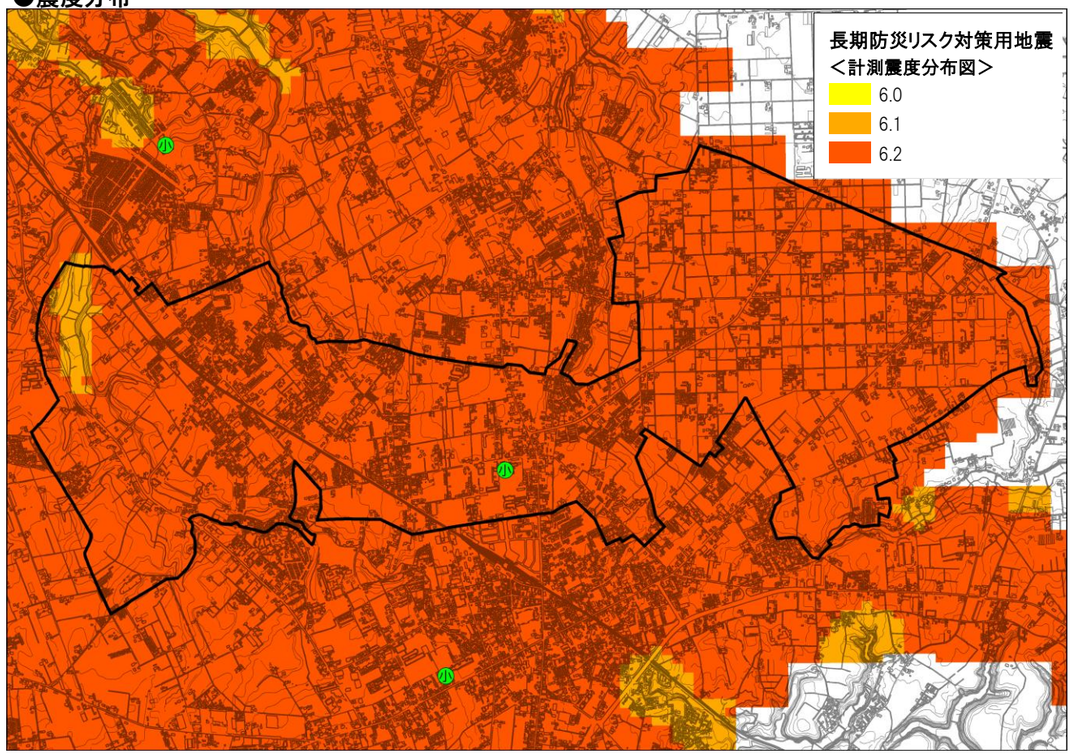
●地区の取組み

【2018年（平成30年）3月作成】

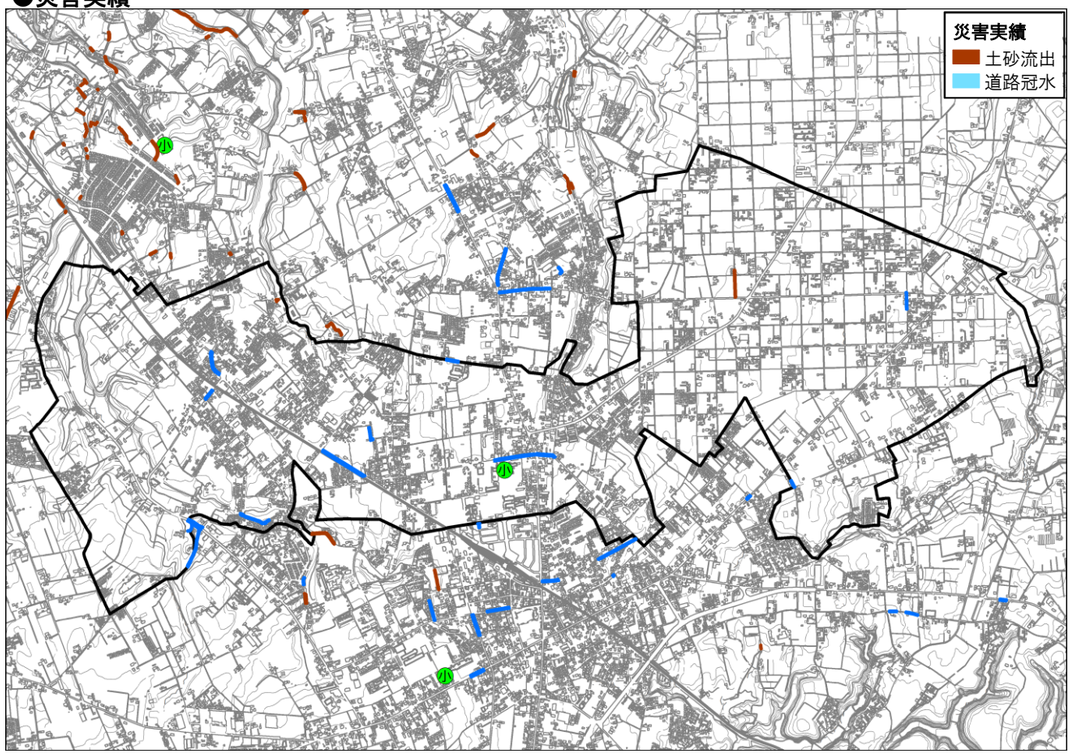
防災アセスメント調査

地区名	八街東小学校

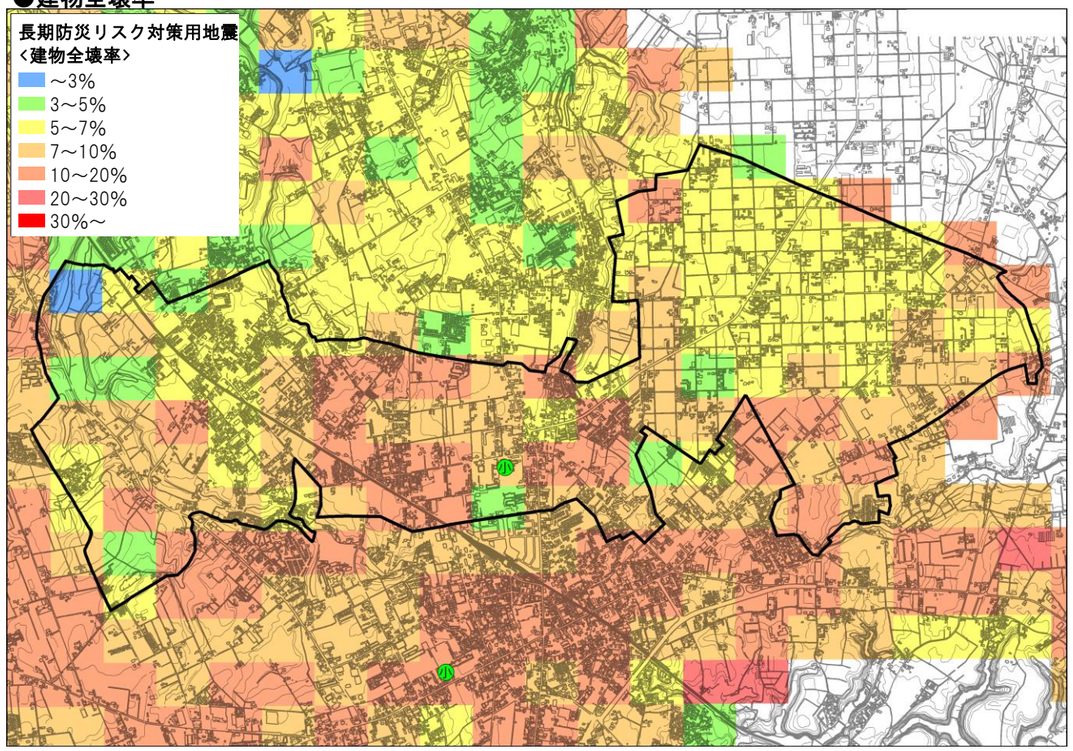
●震度分布



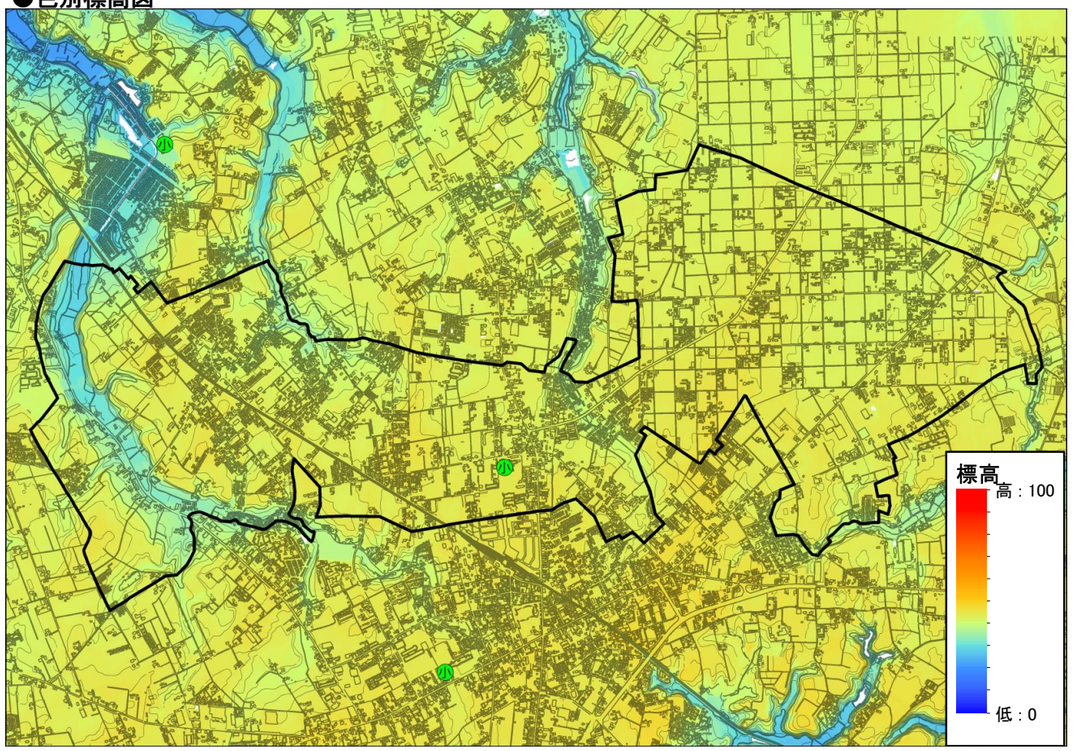
●災害実績



●建物全壊率

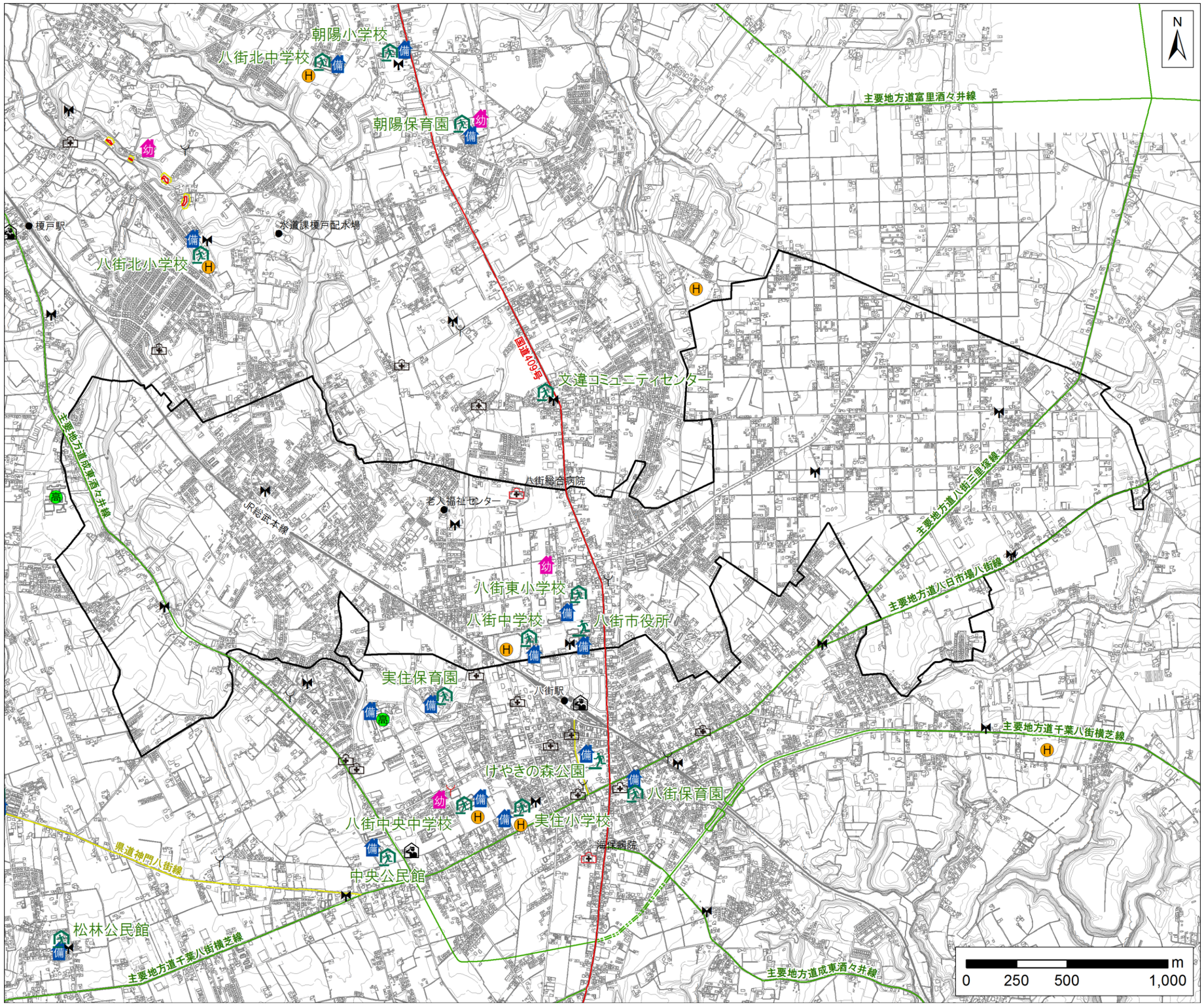


●色別標高図



防災関連施設位置図

地区名	八街東小学校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ 臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

地区概況

地区名	朝陽小学校

●区名称

文違区、住野区、藤の台区、喜望の杜区、八街･榎戸学園台区

●地区の概況

市の北部に位置し、大部分がローム台地である。谷地形との境がおおよそ市の境界部となっているが、東部では一部の谷底平野が地区内にも分布する。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。

中央部を南北に国道409号が通り、東西には富里酒々井線が通る。地区全体で農地のミニ開発が見られ、東部の谷底平野では盛土造成による宅地化が進んでいる。

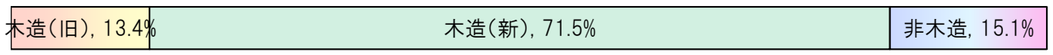
●人口動態

総人口	12,036人	地区面積	9.4k㎡
世帯数	5,040世帯	人口密度	1,286人／k㎡
高齢単独世帯数	374世帯	世帯人口	2.4人／世帯

幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
（0～4歳）	（5～14歳）	（15～65歳）	（65～74歳）	（75歳～）	24.5%
317人	1,011人	7,754人	1,719人	1,235人	

●建物構成

木造建物（S25年以前）	木造建物（S26年～S56年）	木造建物（S57年以後）	非木造建物（S46年以前）	非木造建物（S47年～S56年）	非木造建物（S57年以後）
148棟	579棟	3,883棟	47棟	148棟	628棟



●防災関連施設

病院	奥秋内科医院、ひじかいクリニック
消防 / 警察	-
幼稚園	朝陽幼稚園
協定避難所	-
防災備蓄倉庫	朝陽保育園、朝陽小学校、八街北中学校
ヘリポート	八街北中学校、北部グラウンド
自主防 / 消防団	- / 第6分団、第11分団

●災害履歴（直近）

日付	災害	被害
平成24年8月18日	降雨	道路冠水
平成25年11月1日	台風26号	道路冠水
平成26年10月5日	台風18号	道路冠水
平成28年8月16日～17日	台風7号	土砂流出、道路冠水
平成28年8月22日	台風9号	土砂流出
平成28年9月13日	台風13号	土砂流出、道路冠水
平成28年9月20日～21日	台風16号	土砂流出、道路冠水

●地震被害予測結果（千葉県北西部直下地震）

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

	（市全体）
全壊	5棟	197棟
半壊	81棟	1,416棟

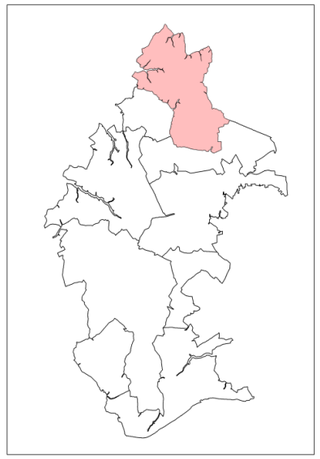
▼火災被害

焼失棟数	0棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			1人	30人
軽傷者			17人	310人
自力脱出困難者			0人	10人
避難者	避難所内	1日後	25人	470人
		最大	214人	4,000人
	避難所外	1日後	17人	310人
		最大	321人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○:安全性が高い △:条件つきで安全性がある ×:安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数(人)		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
朝陽保育園	○	○	245	3,382	○	○	○	○	
朝陽小学校	○	○	1,210	7,447	○	○	○	○	
八街北中学校	○	○	1,182	13,673	○	○	○	○	
住野公民館	-	○	-	769	○	○	○	-	
文違コミュニティセンター	○	-	54	-	○	○	○	○	

●災害特性・防災課題

地盤	東部に分布する谷底平野の盛土造成地、台地と低地の境をなす崖地では、地盤災害の可能性がある。東部の谷底平野では液状化の可能性がある。
土砂災害	土砂災害警戒区域は無いが、台地縁の崖地では土砂災害の注意が必要である。
水害	台地上の浅い谷などで排水不良による内水被害が発生している。流下量の増加が望まれる。
建物	旧耐震基準（昭和56年以前）の木造建物の割合が、全建物の約13%であり、比較的新しい建物が多い。
人口	65歳以上人口が25%未満であり、他の地区に比べて少ない。

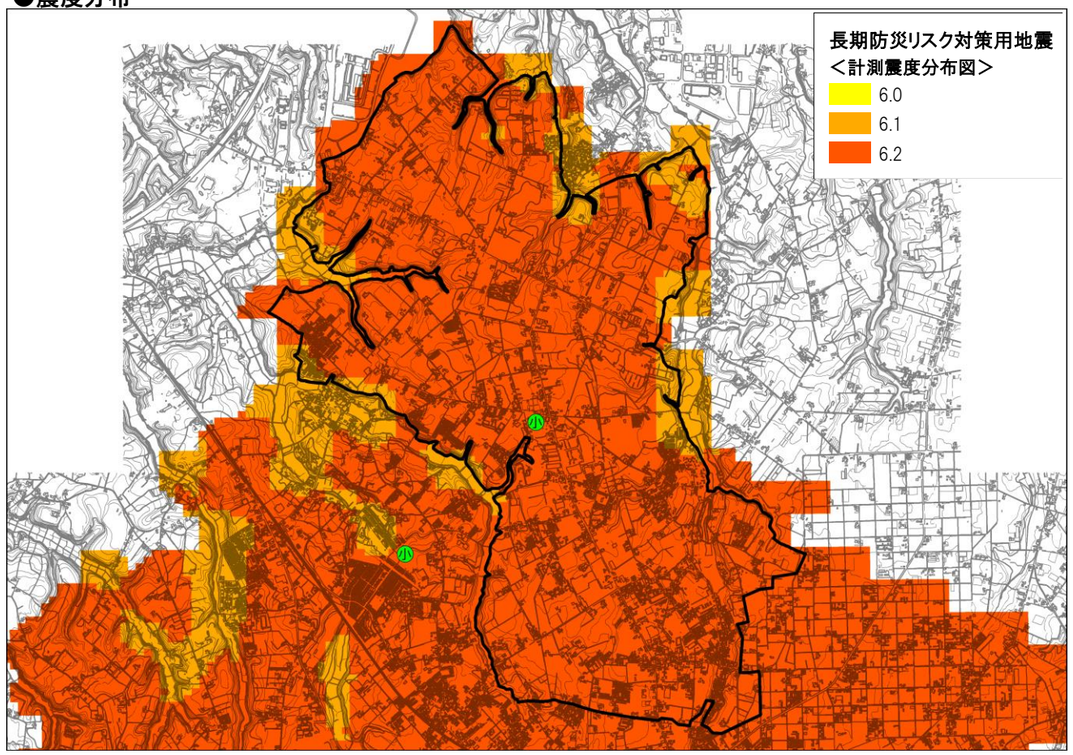
●地区の取組み

【2018年（平成30年）3月作成】

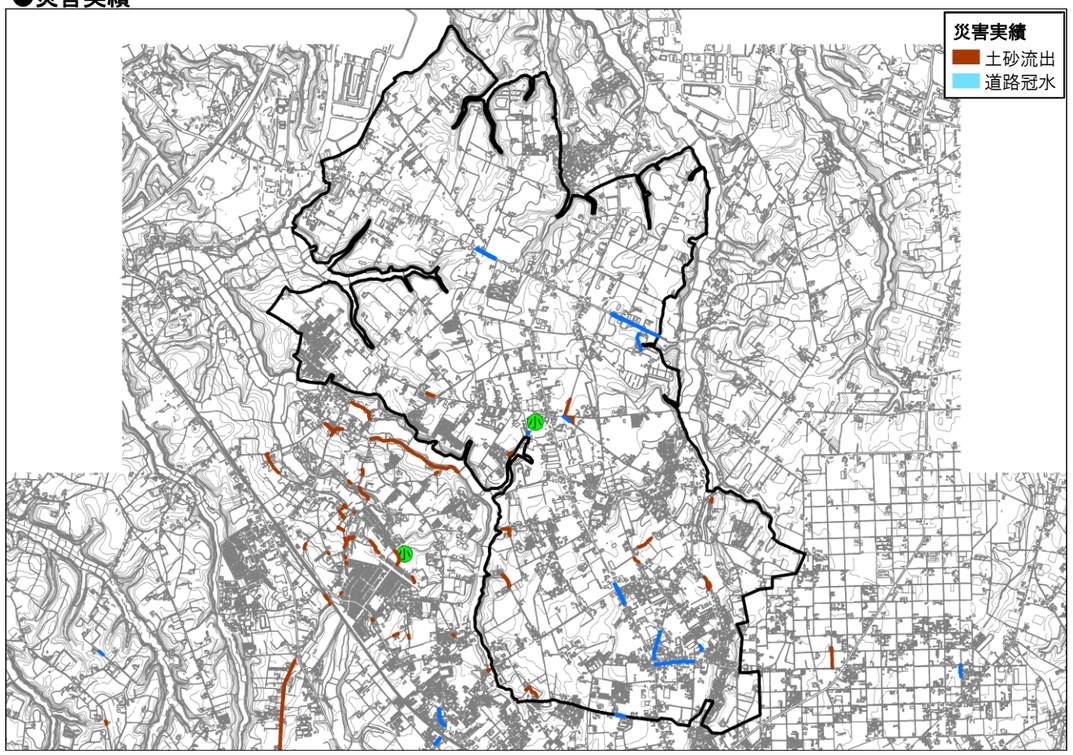
防災アセスメント調査

地区名	朝陽小学校

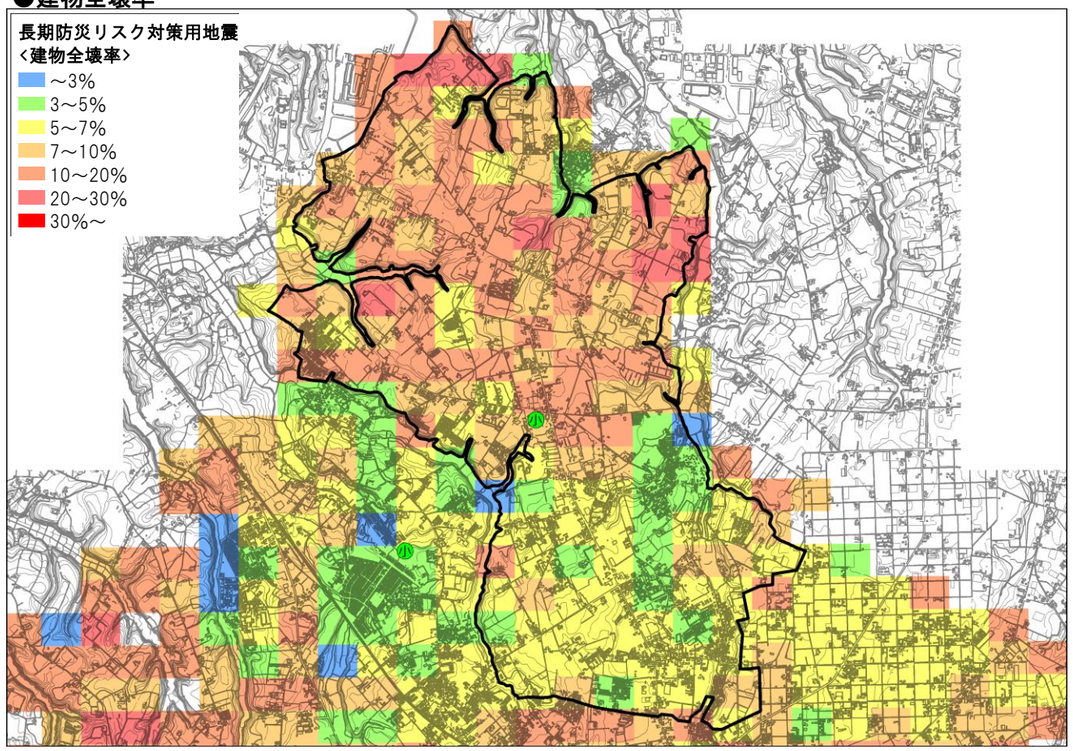
●震度分布



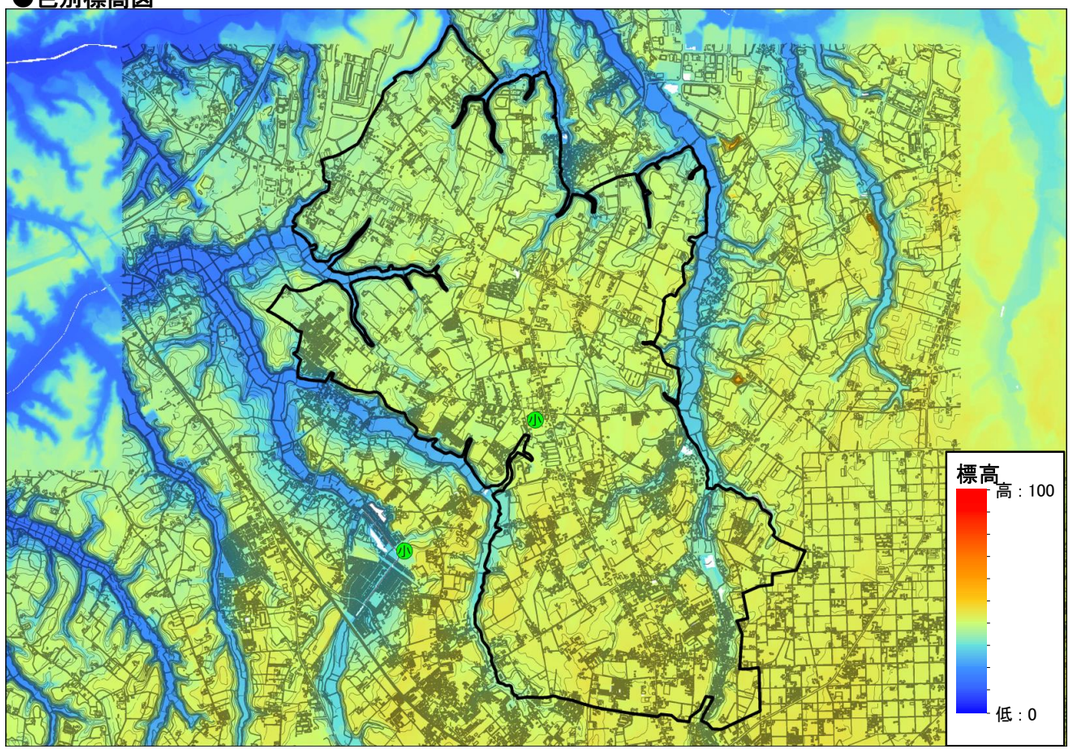
●災害実績



●建物全壊率

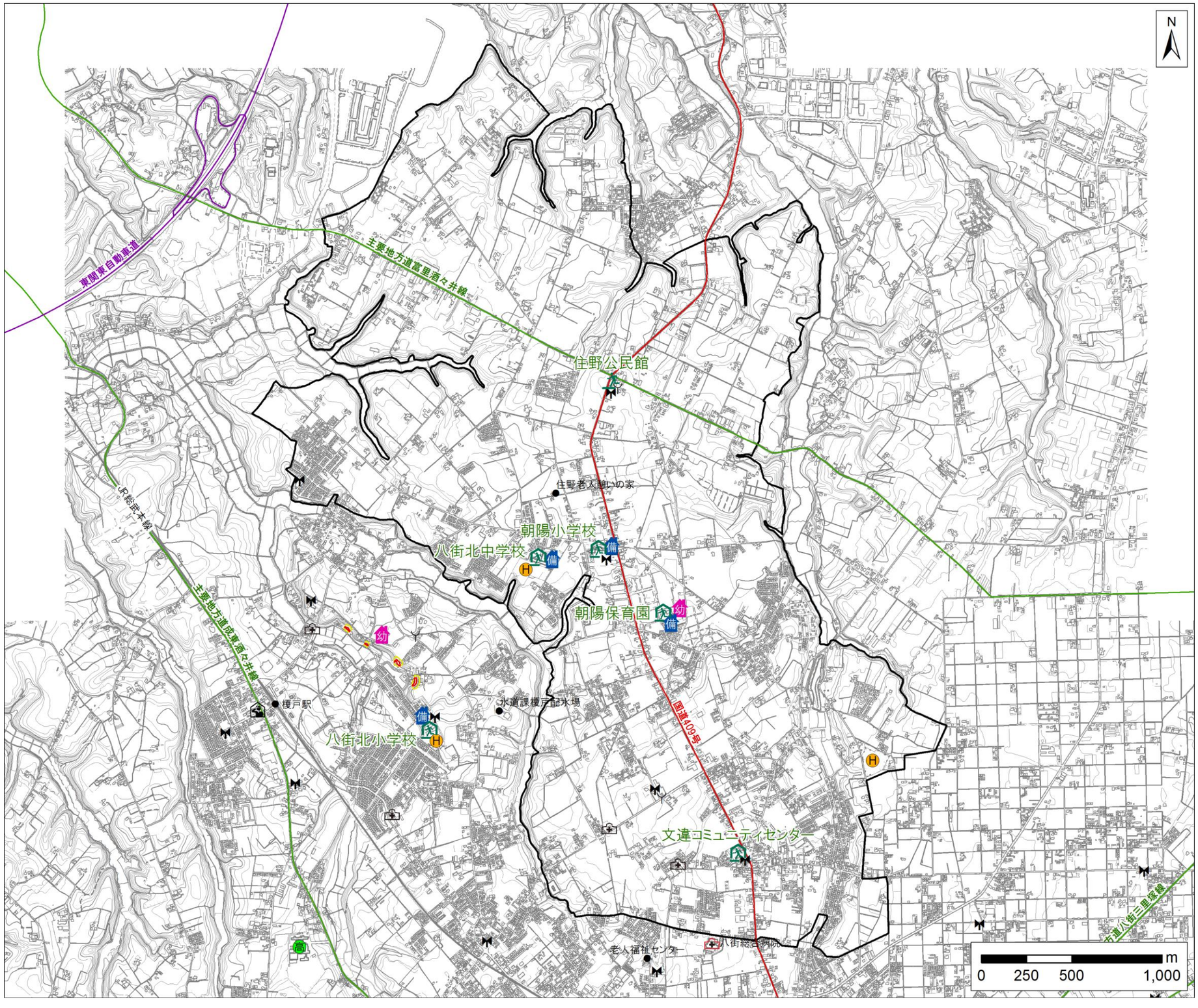


●色別標高図



防災関連施設位置図

地区名	朝陽小学校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ 臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

地区概況

地区名	実住小学校

●区名称

二区、三区、四区、五区、六区(ほ番地、木原)、大東区、東吉田区(総武ニュータウン、691番地2及び県道53号線以南で、かつ、市道2級10号線以西の区域を除く。)、ライオンズガーデン区

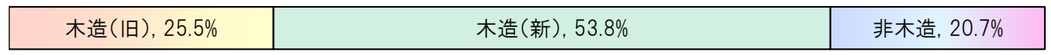
●地区の概況

市の中央に位置し、大部分がローム台地である。南部に台地を刻む谷底平野が分布する。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。

北部には中心市街地が広がっており、ここを中心に道路網が千葉や酒々井、八日市、横芝などに向かって延びている。また、JR総武線の八街駅がある。南部は農地と宅地が混在している。

●人口動態

総人口	17,692人		地区面積	10.2k㎡	
世帯数	7,920世帯		人口密度	1,736人／k㎡	
高齢単独世帯数	748世帯		世帯人口	2.2人／世帯	
幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
(0～4歳)	(5～14歳)	(15～65歳)	(65～74歳)	(75歳～)	28.1%
545人	1,363人	10,815人	2,726人	2,243人	



●建物構成

木造建物(S25年以前)	木造建物(S26年～S56年)	木造建物(S57年以後)	非木造建物(S46年以前)	非木造建物(S47年～S56年)	非木造建物(S57年以後)
420棟	1,814棟	4,702棟	150棟	299棟	1,362棟

●防災関連施設

病院	海保病院、長谷川病院、淡路ウイメンズクリニック、遠藤内科医院、粕谷内科医院、関医院、湯沢クリニック、東葉クリニック八街、かまだ整形外科、鈴木クリニック、八街こどもクリニック
消防 / 警察	八街消防署 / 八街幹部交番、八街駅前交番
幼稚園	明徳やちまたこども園、八街文化幼稚園
協定避難所	千葉黎明高校
防災備蓄倉庫	八街保育園、実住保育園、実住小学校、八街中央中学校、中央公民館、けやきの森公園、千葉黎明高校
ヘリポート	八街中央中学校、実住小学校、東部グラウンド、東吉田グラウンド
自主防 / 消防団	二区コミュニティセンター、二区第十二、三区、五区北部、五区南部、大東区 / 第2～5分団、第23分団

●災害履歴(直近)

日付	災害	被害
平成27年10月1日	豪雨	土砂流出
平成28年4月4日	大雨	道路冠水
平成28年5月17日	大雨	道路冠水
平成28年8月16日～17日	台風7号	土砂流出、道路冠水
平成28年9月13日	台風13号	土砂流出、道路冠水
平成28年9月20日～21日	台風16号	土砂流出
平成29年4月28日	大雨	道路冠水

●地震被害予測結果(千葉県北西部直下地震)

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

	(市全体)
全壊	52棟	197棟
半壊	372棟	1,416棟

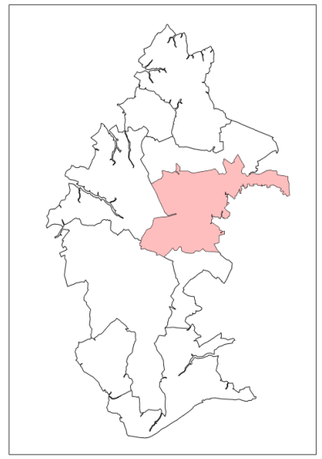
▼火災被害

焼失棟数	1棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			8人	30人
軽傷者			82人	310人
自力脱出困難者			3人	10人
避難者	避難所内	1日後	124人	470人
		最大	1,052人	4,000人
	避難所外	1日後	82人	310人
		最大	1,578人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○:安全性が高い △:条件つきで安全性がある ×:安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数(人)		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
八街保育園	○	○	288	3,567	○	○	○	○	
実住保育園	○	○	190	3,420	○	○	○	○	
実住小学校	○	○	1,516	11,572	△	○	○	○	
八街中央中学校	○	○	1,930	14,579	○	○	○	○	
中央公民館	○	-	319	-	○	○	○	○	
けやきの森公園	-	○	-	11,939	○	○	○	-	

●災害特性・防災課題

地盤	浅い谷を埋めた宅地や台地と低地の境をなす崖地では、地盤災害の可能性がある。また、南部の谷底平野では、液状化の可能性がある。
土砂災害	南西部の台地と低地の境をなす崖地に、土砂災害警戒区域が分布しており、降雨時や地震時にはがけ崩れに注意が必要である。
水害	台地上の浅い谷などで排水不良による内水被害が発生している。流下量の増加が望まれる。
建物	旧耐震基準(昭和56年以前)の木造建物の割合が、全建物の約26%を占めており、強い揺れによる倒壊の可能性が高い。
人口	65歳以上人口が25%を超え、高齢化が進んでいる。

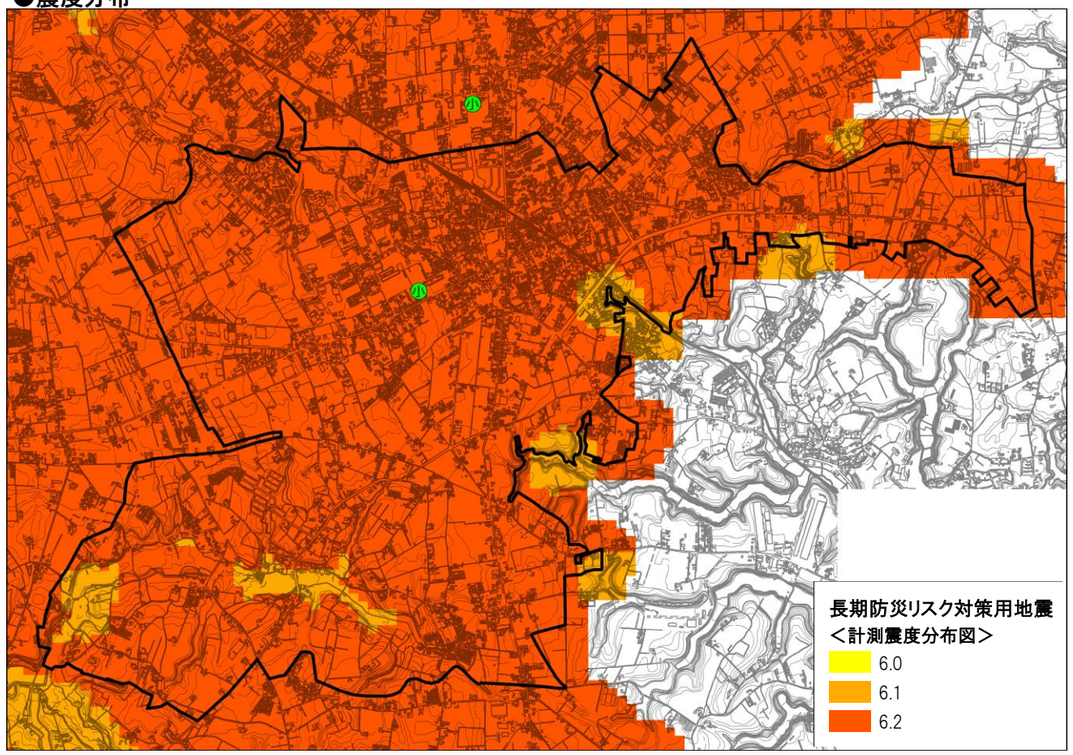
●地区の取組み

【2018年(平成30年)3月作成】

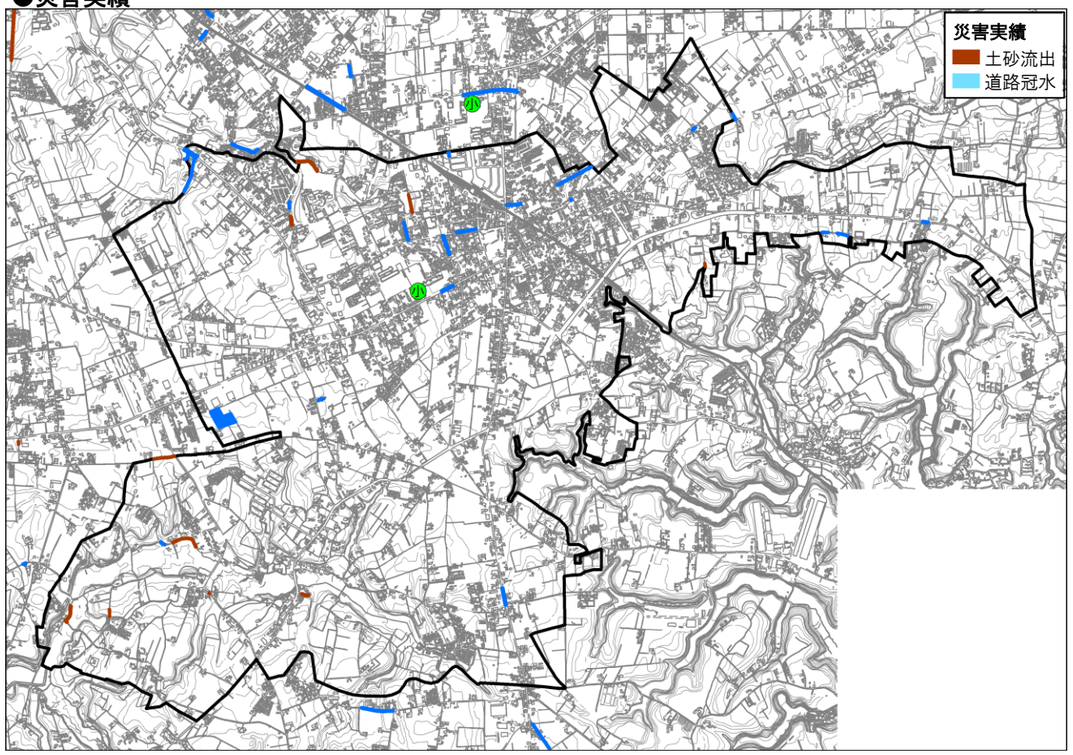
防災アセスメント調査

地区名	実住小学校

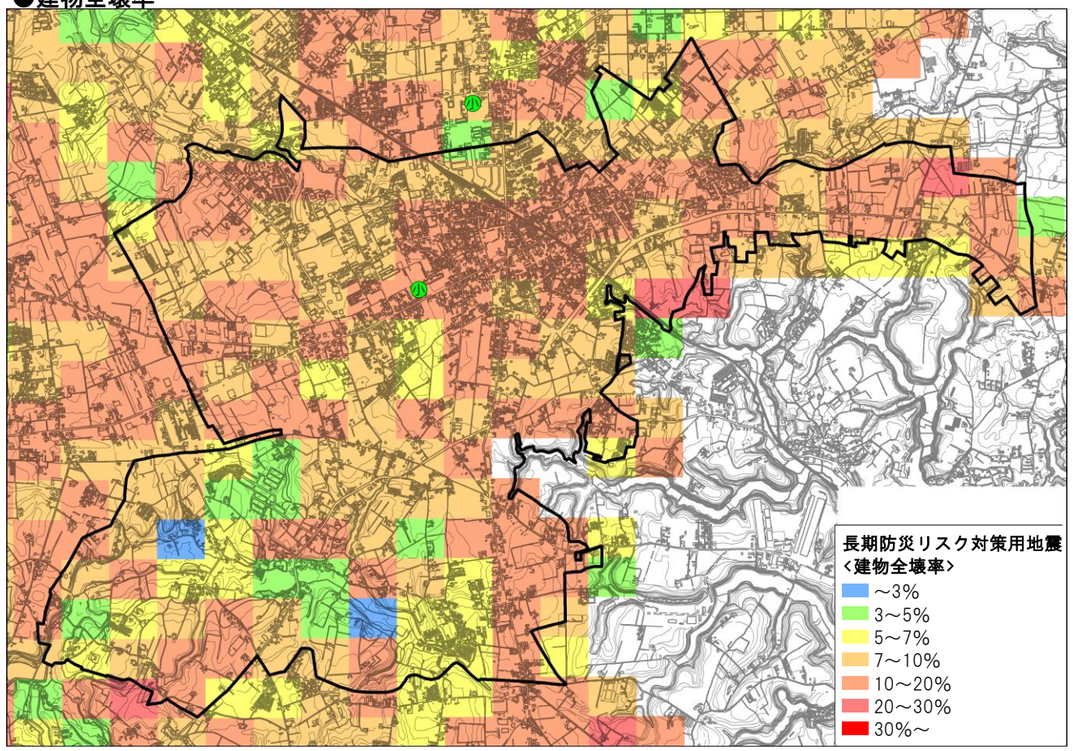
●震度分布



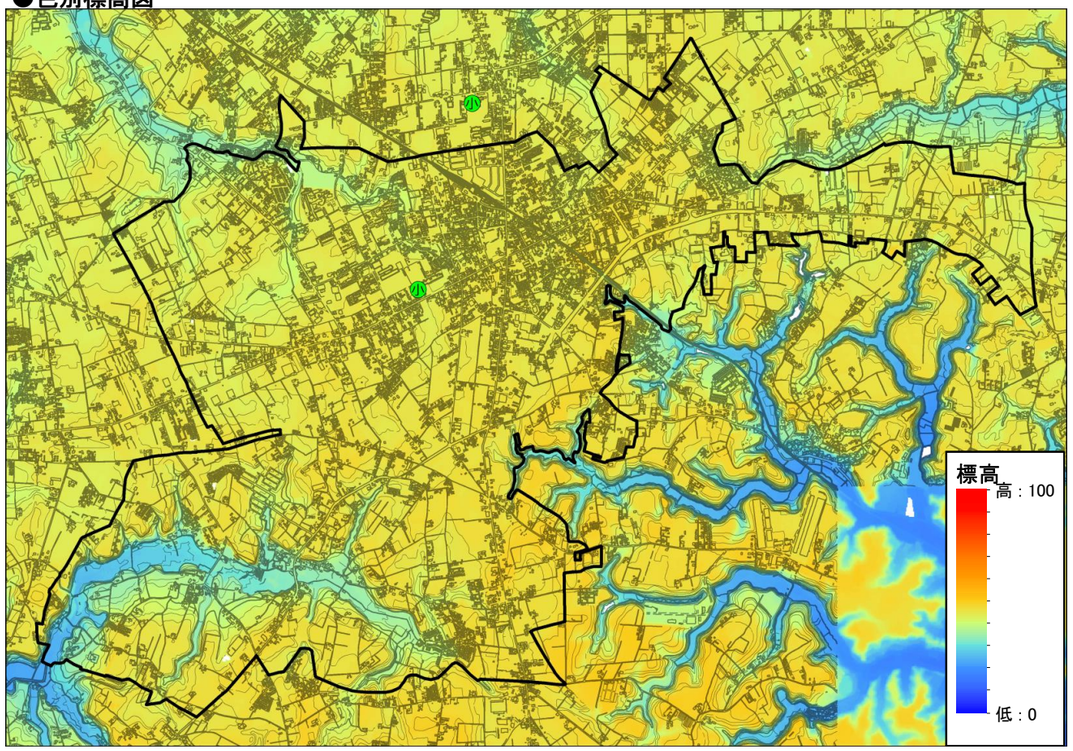
●災害実績



●建物全壊率

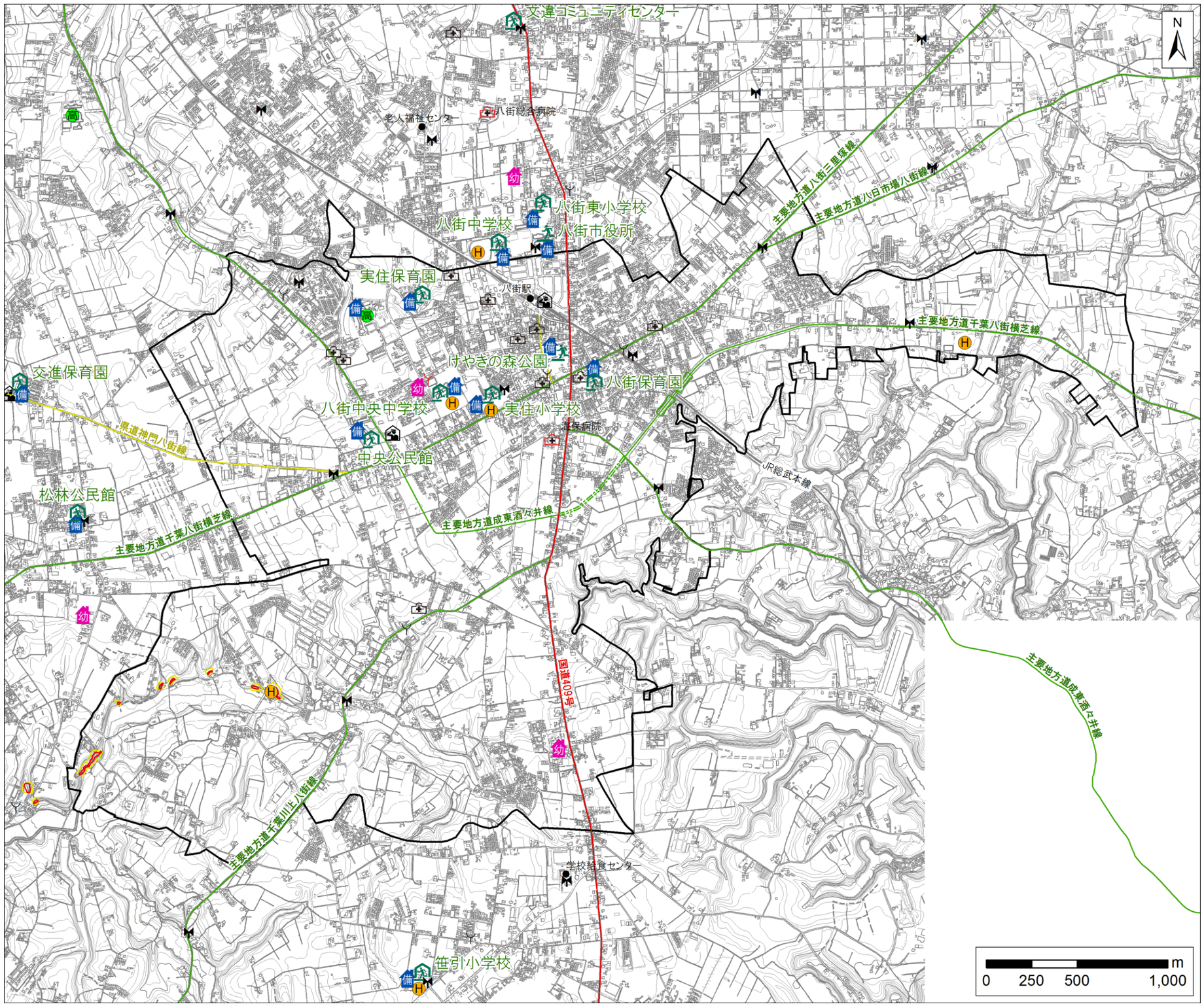


●色別標高図



防災関連施設位置図

地区名	実住小学校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ 臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

地区概況

地区名	交進小学校

●区名称

西林区、夕日丘区、真井原区（市道15008号線以北、氷川神社南側私道以北、市道15006号線以東の区域を除く。）

●地区の概況

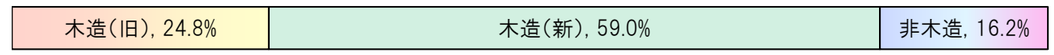
市の中央に位置し、大部分がローム台地であり、西部に台地を刻む谷底平野が分布する。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。

南部を千葉八街横芝線が東西に通る。農地が広がっているが、部分的に小規模な宅地開発が進んでいる。

●人口動態

総人口	7,298人	地区面積	11.2k㎡
世帯数	3,115世帯	人口密度	654人／k㎡
高齢単独世帯数	253世帯	世帯人口	2.3人／世帯

幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
（0～4歳）	（5～14歳）	（15～65歳）	（65～74歳）	（75歳～）	29.0%
164人	469人	4,546人	1,264人	855人	



●建物構成

木造建物（S25年以前）	木造建物（S26年～S56年）	木造建物（S57年以後）	非木造建物（S46年以前）	非木造建物（S47年～S56年）	非木造建物（S57年以後）
257棟	725棟	2,336棟	36棟	121棟	485棟

●防災関連施設

病院	－
消防 / 警察	－ / 西林駐在所
幼稚園	八街すずらん幼稚園
協定避難所	八街高校
防災備蓄倉庫	交進保育園、交進小学校、松林公民館、スポーツプラザ
ヘリポート	交進小学校、スポーツプラザ
自主防 / 消防団	－ / 第15分団、第16分団

●災害履歴（直近）

日付	災害	被害
平成27年9月9日	大雨	道路冠水
平成27年10月1日	豪雨	土砂流出
平成28年8月16日～17日	台風7号	土砂流出
平成28年8月22日	台風9号	土砂流出
平成28年8月29日～30日	台風10号	土砂流出
平成28年9月13日	台風13号	土砂流出、道路冠水
平成28年9月20日～21日	台風16号	土砂流出

●地震被害予測結果（千葉県北西部直下地震）

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

		（市全体）
全壊	42棟	197棟
半壊	252棟	1,416棟

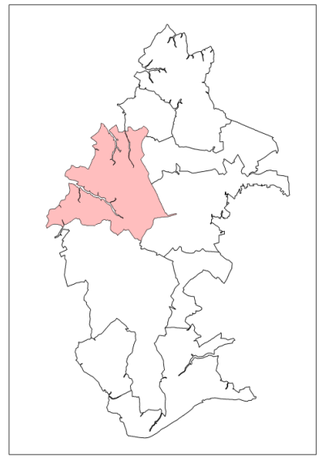
▼火災被害

焼失棟数	0棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			6人	30人
軽傷者			56人	310人
自力脱出困難者			2人	10人
避難者	避難所内	1日後	86人	470人
		最大	729人	4,000人
	避難所外	1日後	56人	310人
		最大	1,093人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○：安全性が高い △：条件つきで安全性がある ×：安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数（人）		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
交進保育園	○	○	205	1,621	○	○	○	○	
交進小学校	○	○	729	8,968	○	○	○	○	
松林公民館	○	－	57	－	○	○	○	○	
スポーツプラザ	○	－	947	－	○	○	○	○	
神田集会所	○	－	56	－	○	○	○	○	

●災害特性・防災課題

地盤	浅い谷を埋めた宅地や台地と低地の境をなす崖地では、地盤災害の可能性がある。また、西部の谷底平野では、液状化の可能性がある。
土砂災害	土砂災害警戒区域は無いが、台地縁の崖地では土砂災害の注意が必要である。
水害	台地上の浅い谷などで排水不良による内水被害が発生している。流下量の増加が望まれる。
建物	旧耐震基準（昭和56年以前）の木造建物の割合が、全建物の約25%を占めており、強い揺れによる倒壊の可能性が高い。
人口	65歳以上人口が25%を超え、高齢化が進んでいる。

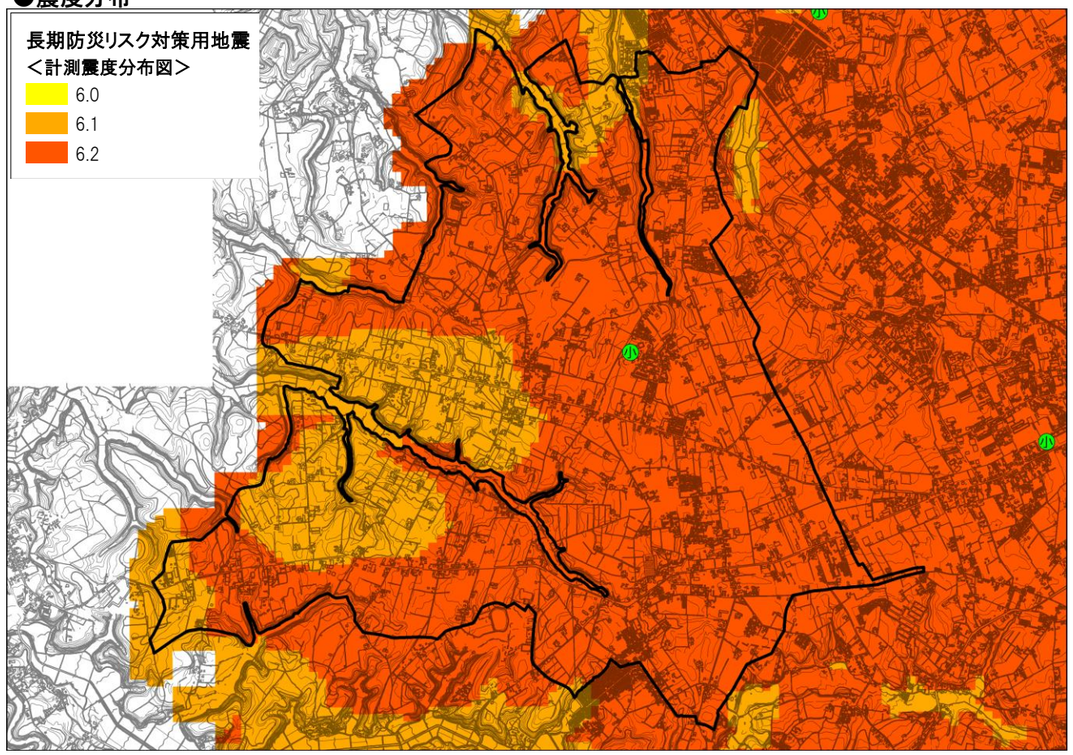
●地区の取組み

【2018年（平成30年）3月作成】

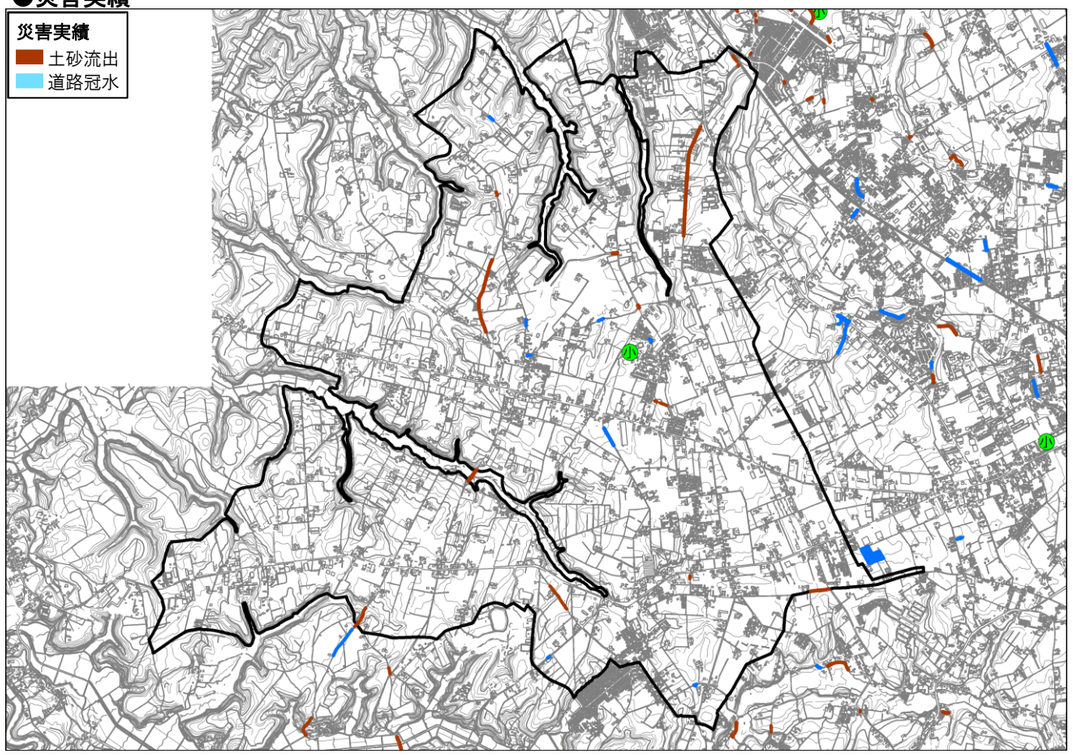
防災アセスメント調査

地区名	交進小学校

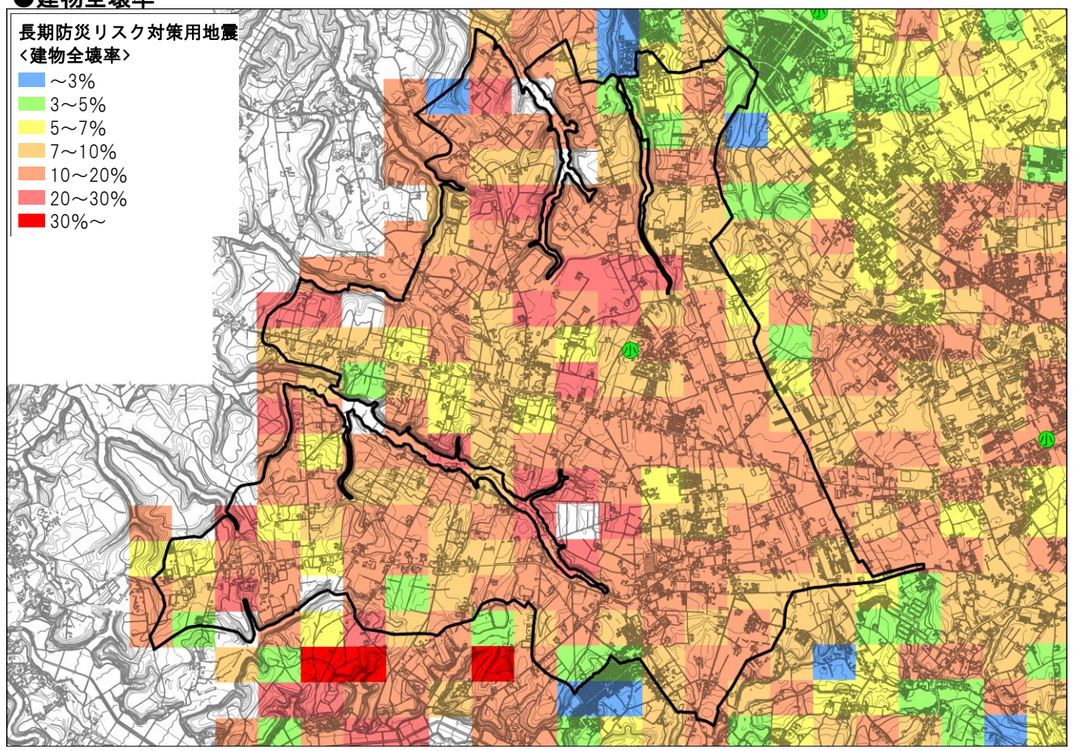
●震度分布



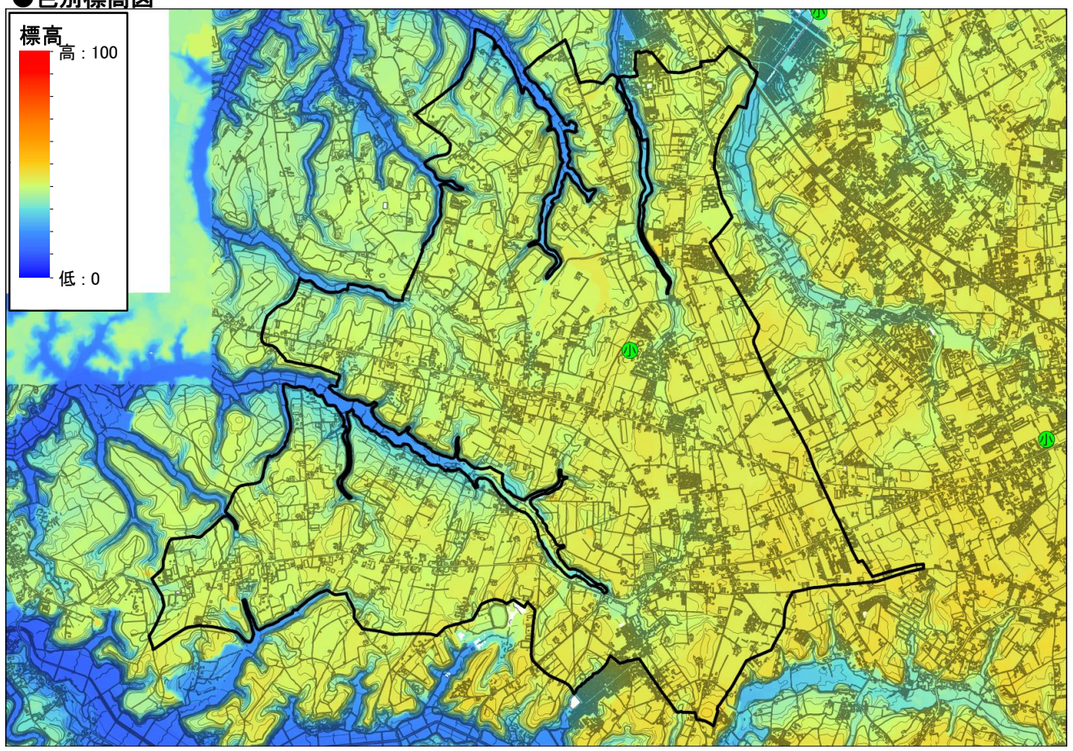
●災害実績



●建物全壊率



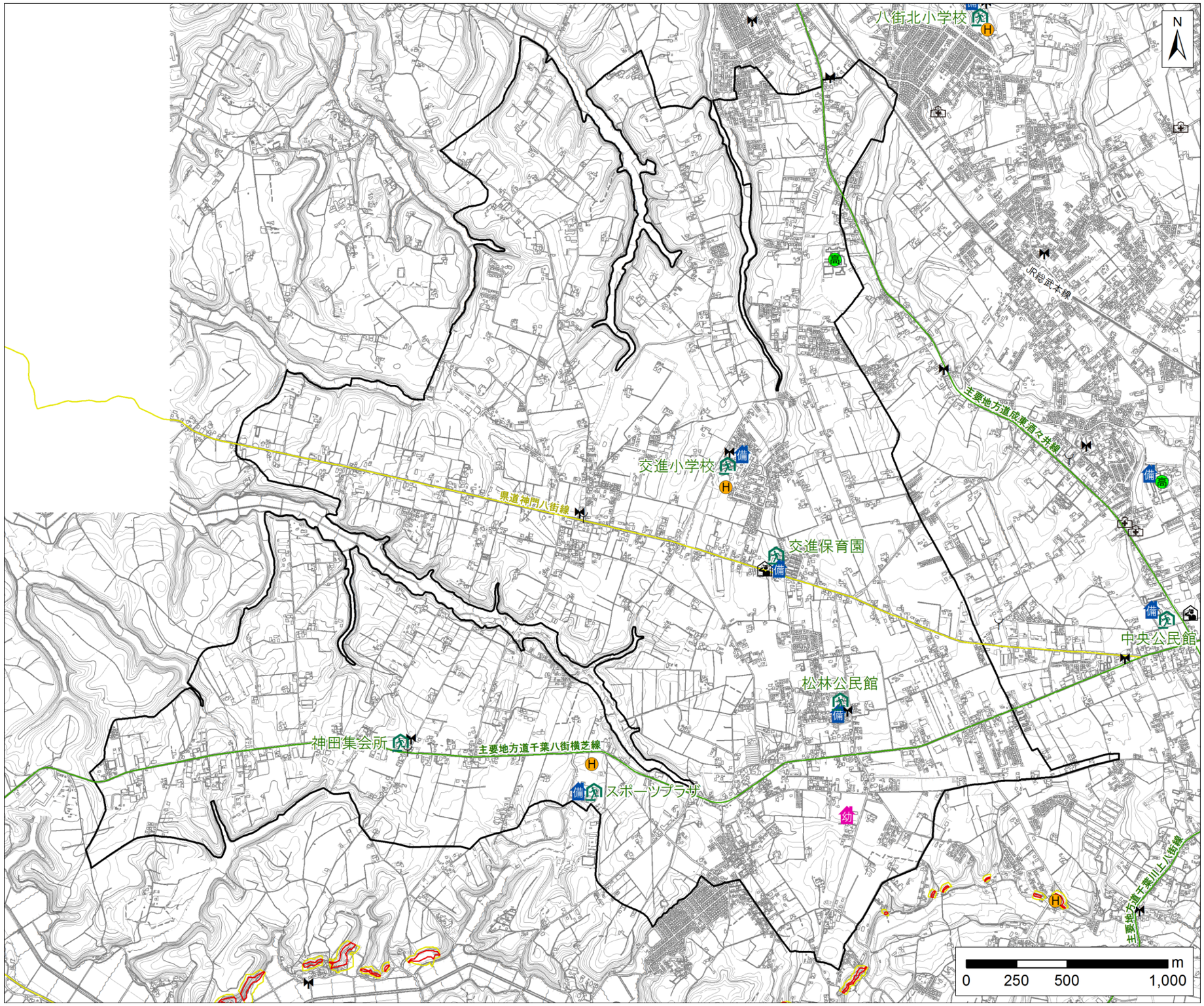
●色別標高図



地区別防災カルテ　様式２

防災関連施設位置図

地区名	交進小学校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ 臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

地区概況

地区名	笹引小学校

●区名称

六区（へ番地）、四木区（515番地～1205番地）、東吉田区（総武ニュータウン、691番地2及び県道53号線以南で、かつ、市道2級10号線以西の区域）

●地区の概況

市の中央に位置し、大部分がローム台地である。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。

北東部を国道409号が南北に通る。地区の多くは農地として利用されているが、台地上のミニ開発などが行われている。

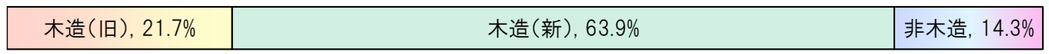
●人口動態

総人口	2,984人	地区面積	3.6k㎡
世帯数	1,299世帯	人口密度	836人／k㎡
高齢単独世帯数	103世帯	世帯人口	2.3人／世帯

幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
（0～4歳）	（5～14歳）	（15～65歳）	（65～74歳）	（75歳～）	27.2%
58人	235人	1,879人	517人	295人	

●建物構成

木造建物（S25年以前）	木造建物（S26年～S56年）	木造建物（S57年以後）	非木造建物（S46年以前）	非木造建物（S47年～S56年）	非木造建物（S57年以後）
93棟	242棟	985棟	10棟	48棟	163棟



●防災関連施設

病院	－
消防 / 警察	－
幼稚園	－
協定避難所	－
防災備蓄倉庫	笹引小学校
ヘリポート	笹引小学校
自主防 / 消防団	六区実住、六区第二、六区第三 / 第13分団、第14分団

●災害履歴（直近）

日付	災害	被害
平成22年9月26～28日	大雨	道路冠水
平成22年10月9日～10日	降雨	道路冠水
平成22年12月3日	大雨	道路冠水
平成22年12月22日	大雨	道路冠水
平成24年5月10日	降雨	道路冠水
平成25年11月1日	台風26号	道路冠水
平成28年9月13日	台風13号	土砂流出、道路冠水

●地震被害予測結果（千葉県北西部直下地震）

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

		（市全体）
全壊	10棟	197棟
半壊	77棟	1,416棟

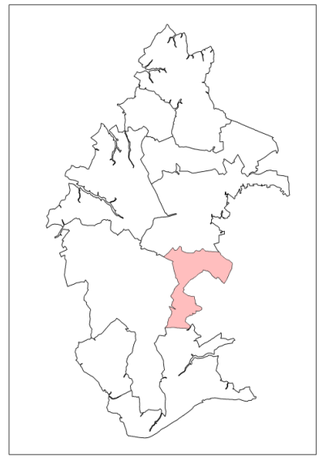
▼火災被害

焼失棟数	0棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			1人	30人
軽傷者			17人	310人
自力脱出困難者			0人	10人
避難者	避難所内	1日後	25人	470人
		最大	214人	4,000人
	避難所外	1日後	17人	310人
		最大	322人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○：安全性が高い △：条件つきで安全性がある ×：安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数（人）		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
笹引小学校	○	○	565	8,352	○	○	○	○	

●災害特性・防災課題

地盤	浅い谷を盛土造成した宅地では、地盤災害の可能性がある。
土砂災害	土砂災害警戒区域は無いが、市境にある台地縁の崖地では土砂災害の注意が必要である。
水害	台地上の浅い谷などで排水不良による内水被害が発生している。流下量の増加が望まれる。
建物	旧耐震基準（昭和56年以前）の木造建物の割合が、全建物の約22%を占めており、強い揺れによる倒壊の可能性が高い。
人口	65歳以上人口が25%を超え、高齢化が進んでいる。

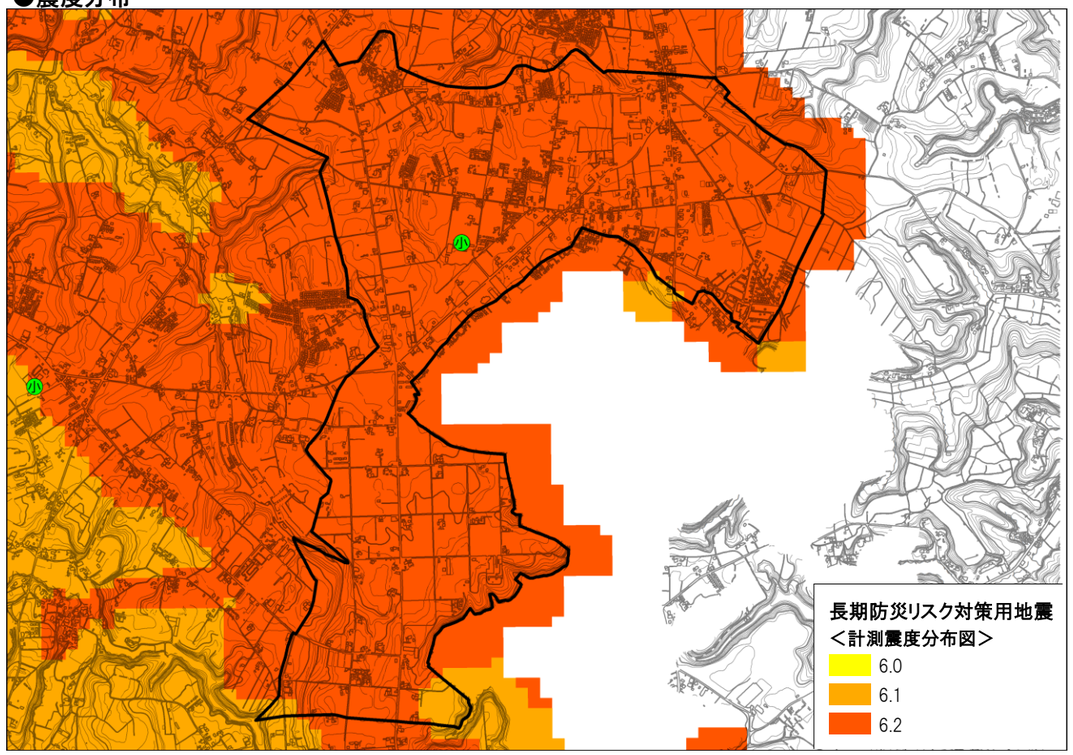
●地区の取組み

【2018年（平成30年）3月作成】

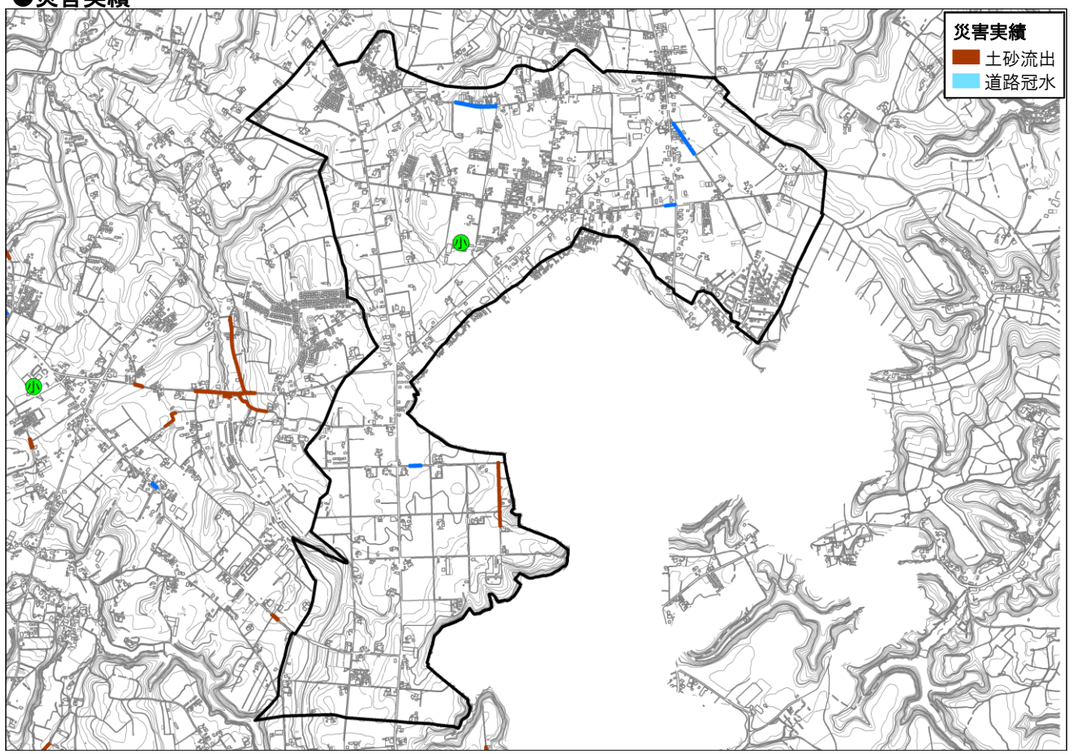
防災アセスメント調査

地区名	笹引小学校

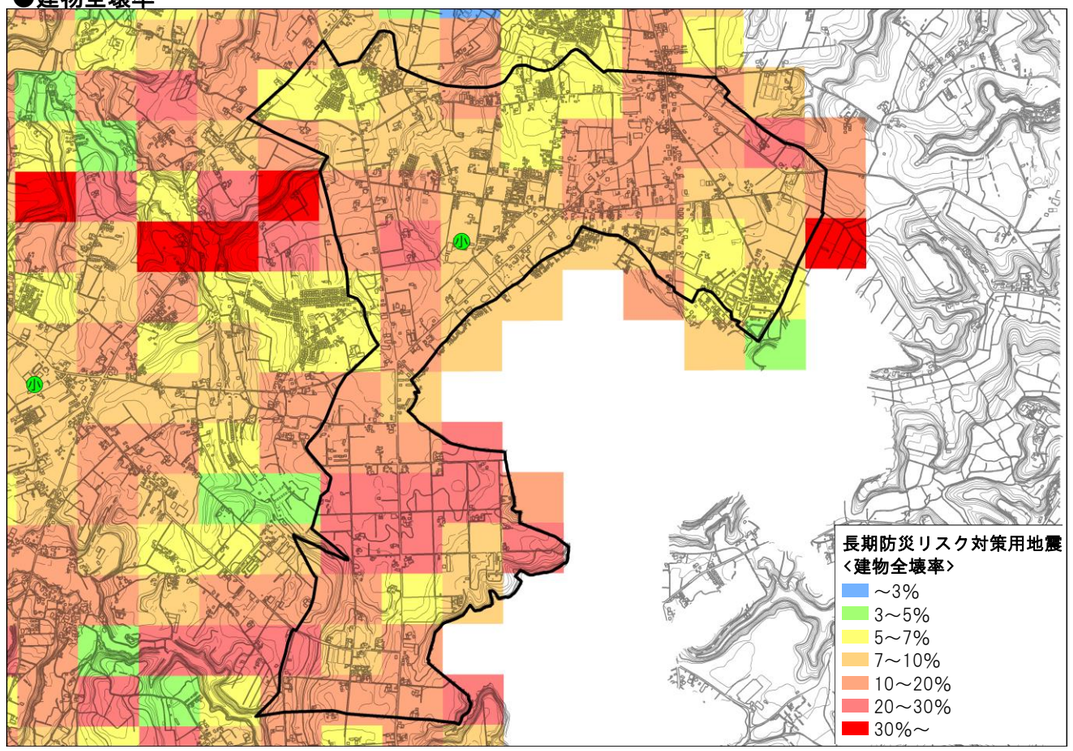
●震度分布



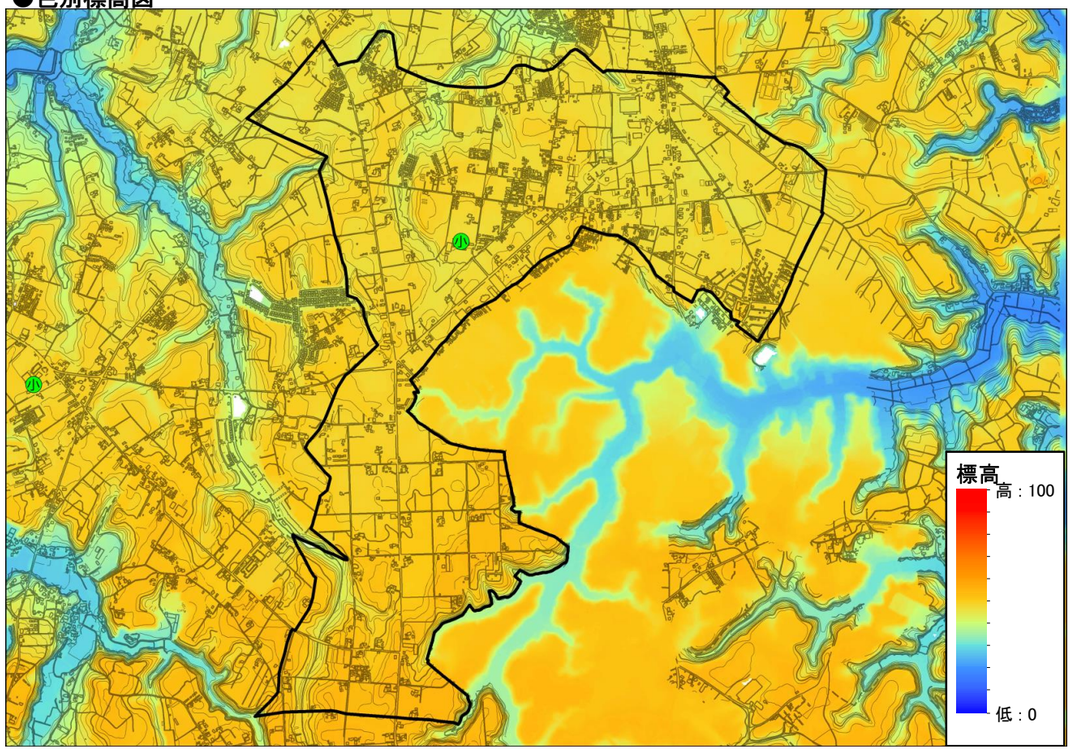
●災害実績



●建物全壊率

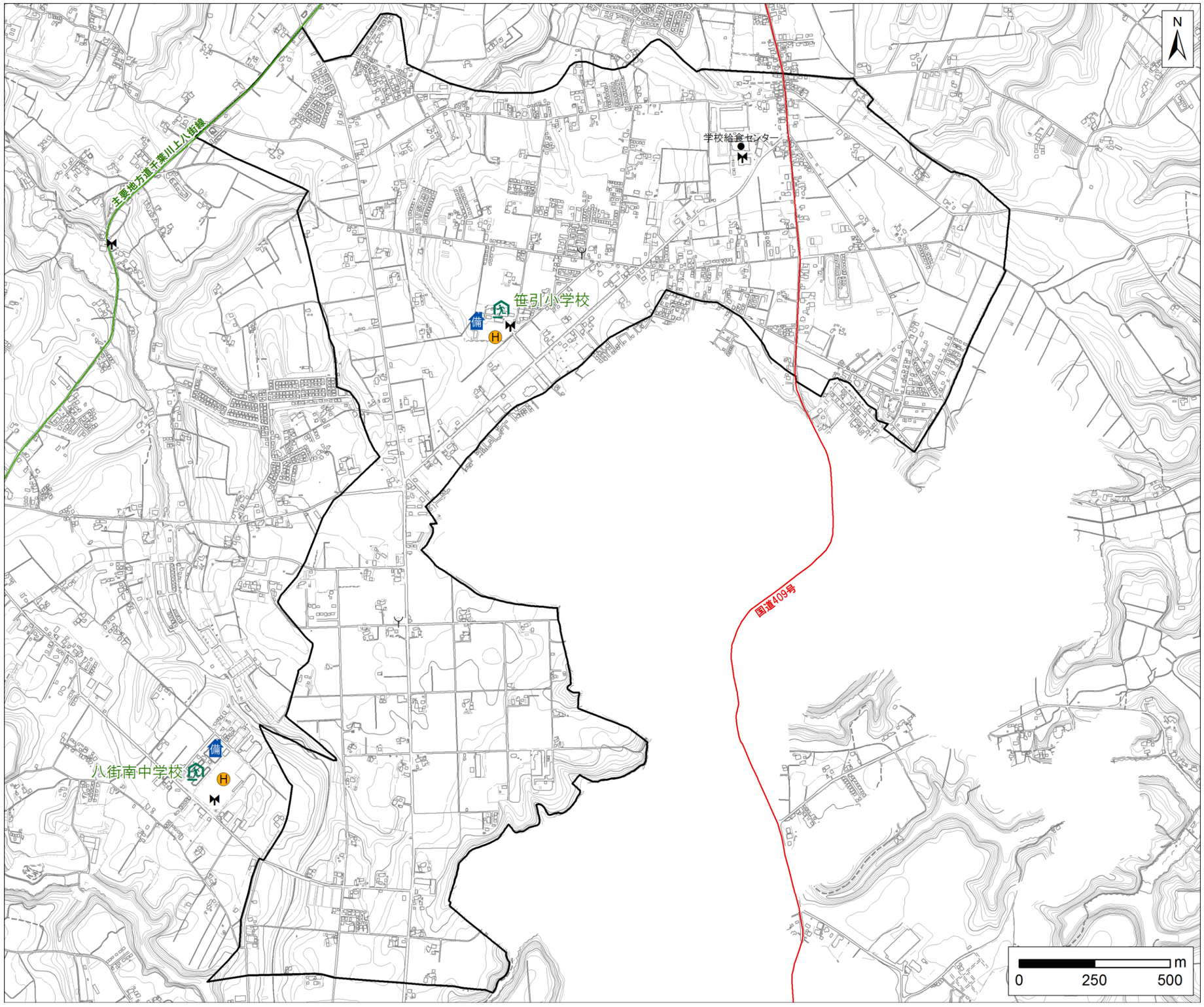


●色別標高図



防災関連施設位置図

地区名	笹引小学校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ 臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

地区概況

地区名	二州小学校

●区名称

四木区（515番地～1205番地を除く。）、滝台区、山田台区、沖区、上砂区（290～478、481の2、482の1、482の2、811～857番地）

●地区の概況

市の南部に位置し、大部分がローム台地である。地区の中央部に谷底平野が分布する。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。

東部を国道409号が南北に通り、南部には国道126号（東金街道）が東西に通る。地区の多くは農地として利用されているが、台地上のミニ開発などが行われている。

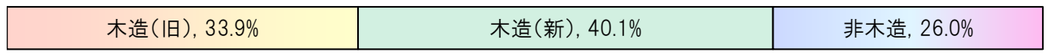
●人口動態

総人口	3,425人	地区面積	9.6k㎡
世帯数	1,570世帯	人口密度	357人／k㎡
高齢単独世帯数	127世帯	世帯人口	2.2人／世帯

幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
（0～4歳）	（5～14歳）	（15～65歳）	（65～74歳）	（75歳～）	35.4%
62人	212人	1,939人	662人	550人	

●建物構成

木造建物（S25年以前）	木造建物（S26年～S56年）	木造建物（S57年以後）	非木造建物（S46年以前）	非木造建物（S47年～S56年）	非木造建物（S57年以後）
176棟	649棟	975棟	52棟	115棟	467棟



●防災関連施設

病院	南八街病院
消防 / 警察	- / 山田台駐在所
幼稚園	-
協定避難所	-
防災備蓄倉庫	二州小学校、二州第一保育園、二州第二保育園
ヘリポート	南部グラウンド、千葉県畜産センター
自主防 / 消防団	山五町内、上砂 / 第7分団、第8分団

●災害履歴（直近）

日付	災害	被害
平成24年5月10日	降雨	土砂流出
平成25年9月15日～16日	台風18号	土砂流出
平成25年11月1日	台風26号	道路冠水
平成27年10月1日	豪雨	土砂流出
平成28年8月16日～17日	台風7号	土砂流出
平成28年9月13日	台風13号	土砂流出、道路冠水
平成28年9月20日～21日	台風16号	土砂流出

●地震被害予測結果（千葉県北西部直下地震）

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

	（市全体）
全壊	22棟	197棟
半壊	149棟	1,416棟

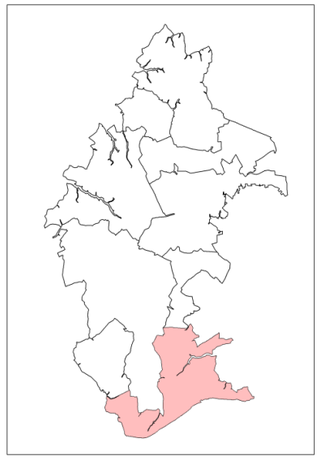
▼火災被害

焼失棟数	0棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			3人	30人
軽傷者			33人	310人
自力脱出困難者			1人	10人
避難者	避難所内	1日後	50人	470人
		最大	422人	4,000人
	避難所外	1日後	33人	310人
		最大	634人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○：安全性が高い △：条件つきで安全性がある ×：安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数（人）		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
二州小学校	○	○	856	10,862	○	○	○	○	
滝台区コミュニティセンター	○	-	48	-	○	○	○	○	
二州第一保育園	○	○	132	1,129	○	○	○	○	
二州第二保育園	○	○	159	2,012	○	○	○	○	

●災害特性・防災課題

地盤	中央部の谷底平野や浅い谷を盛土造成した宅地では、地盤災害の可能性がある。また、谷底平野では液状化の可能性が高い。
土砂災害	土砂災害警戒区域は無いが、台地縁の崖地では土砂災害の注意が必要である。
水害	台地上の浅い谷などで排水不良による内水被害が発生している。流下量の増加が望まれる。
建物	旧耐震基準（昭和56年以前）の木造建物の割合が、全建物の約34%を占めており、強い揺れによる倒壊の可能性が高い。
人口	65歳以上人口が35%を超え、高齢化が進んでいる。

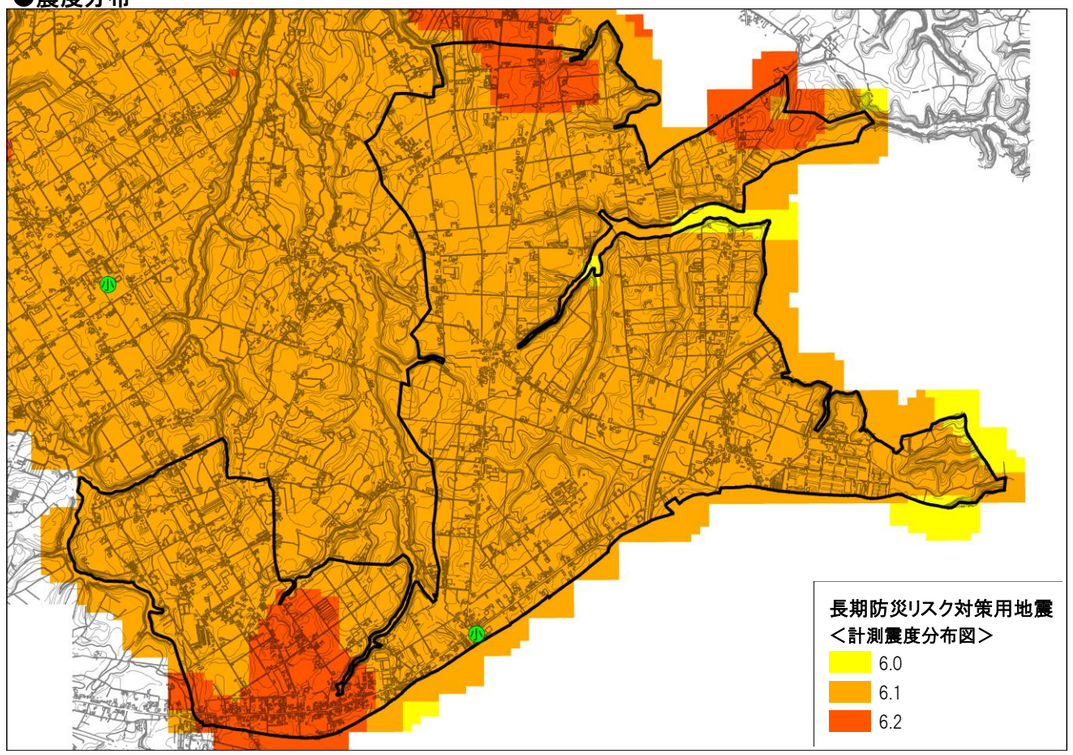
●地区の取組み

【2018年（平成30年）3月作成】

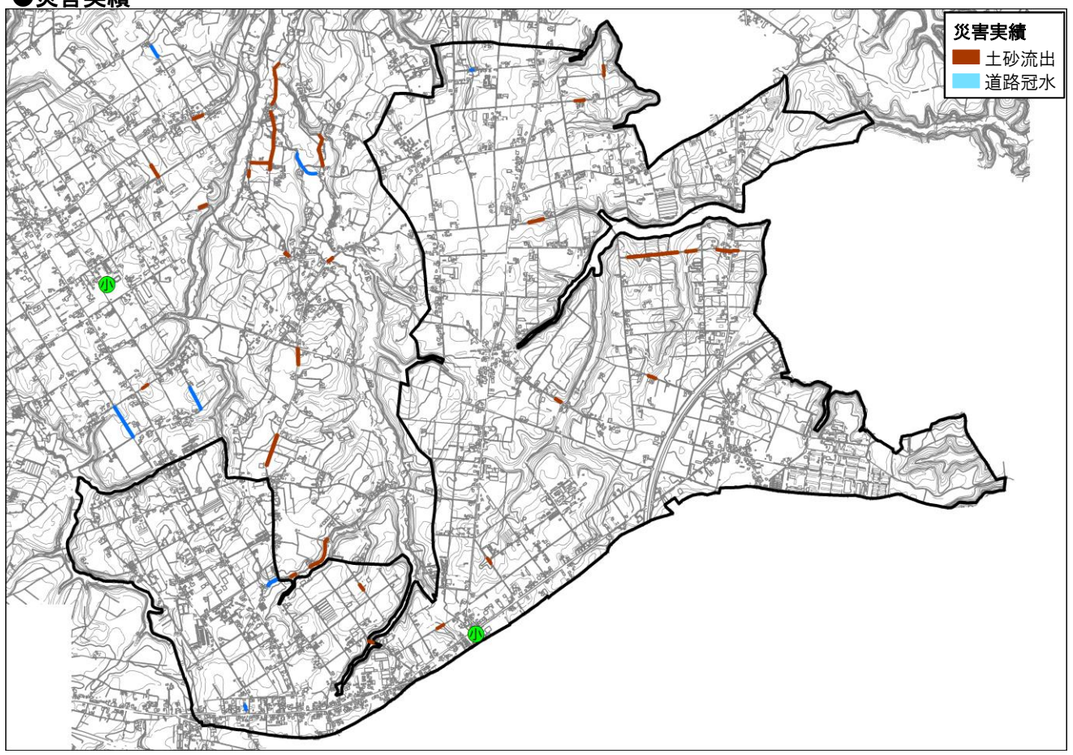
防災アセスメント調査

地区名	二州小学校

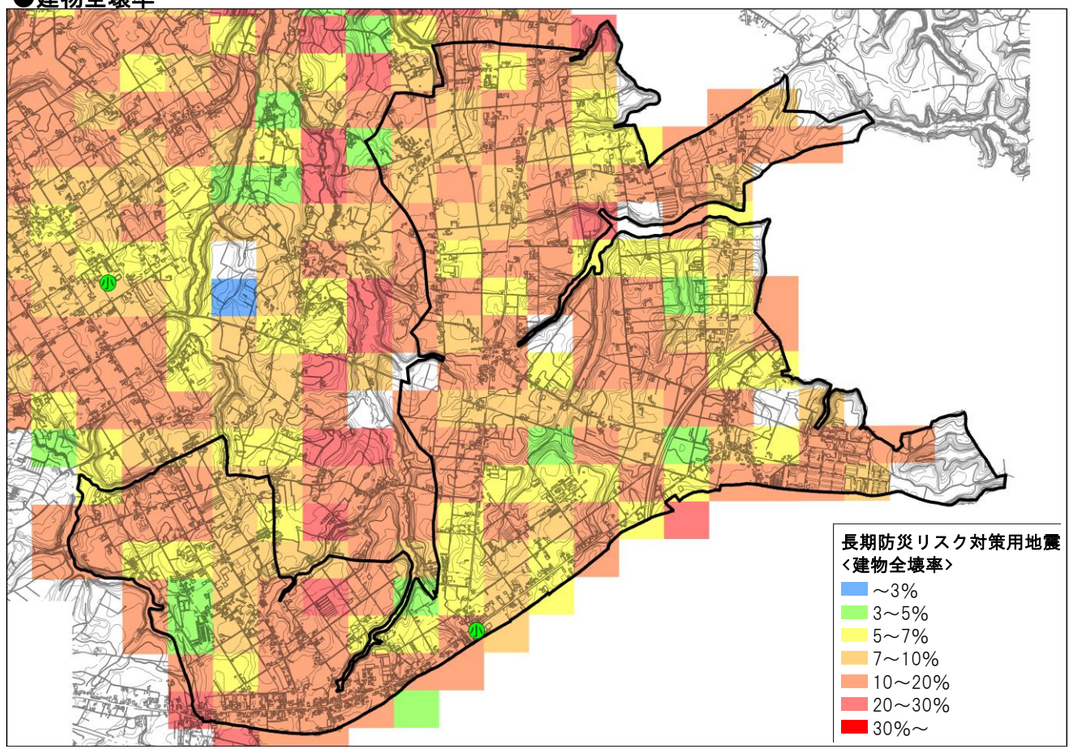
●震度分布



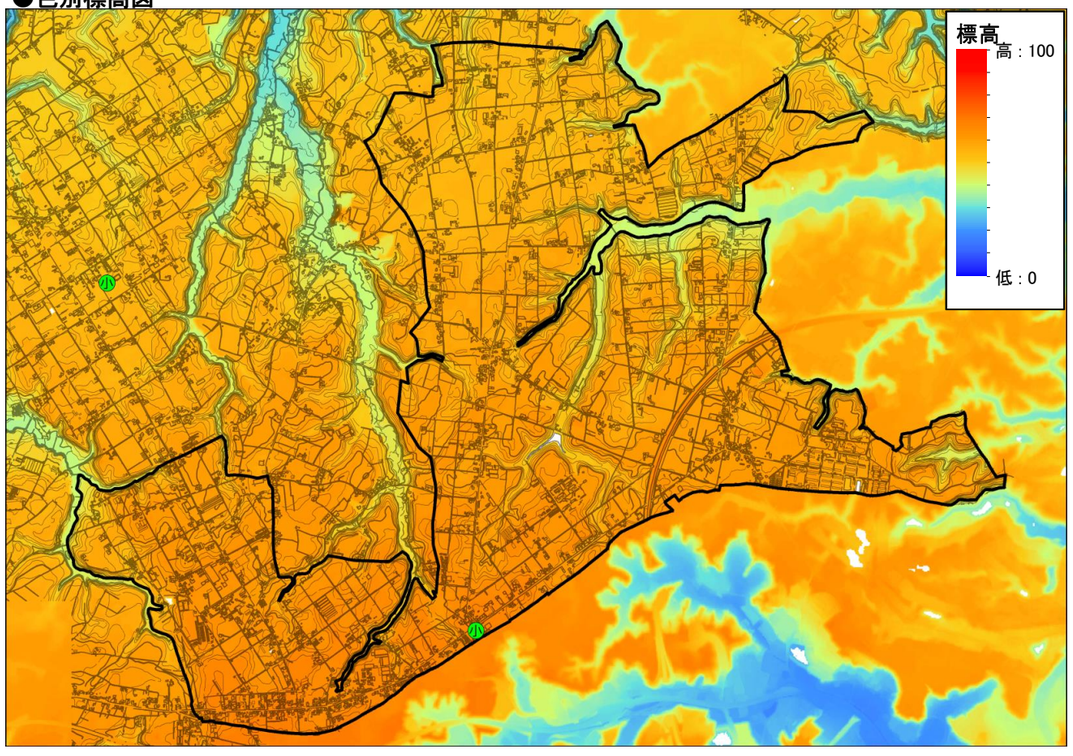
●災害実績



●建物全壊率

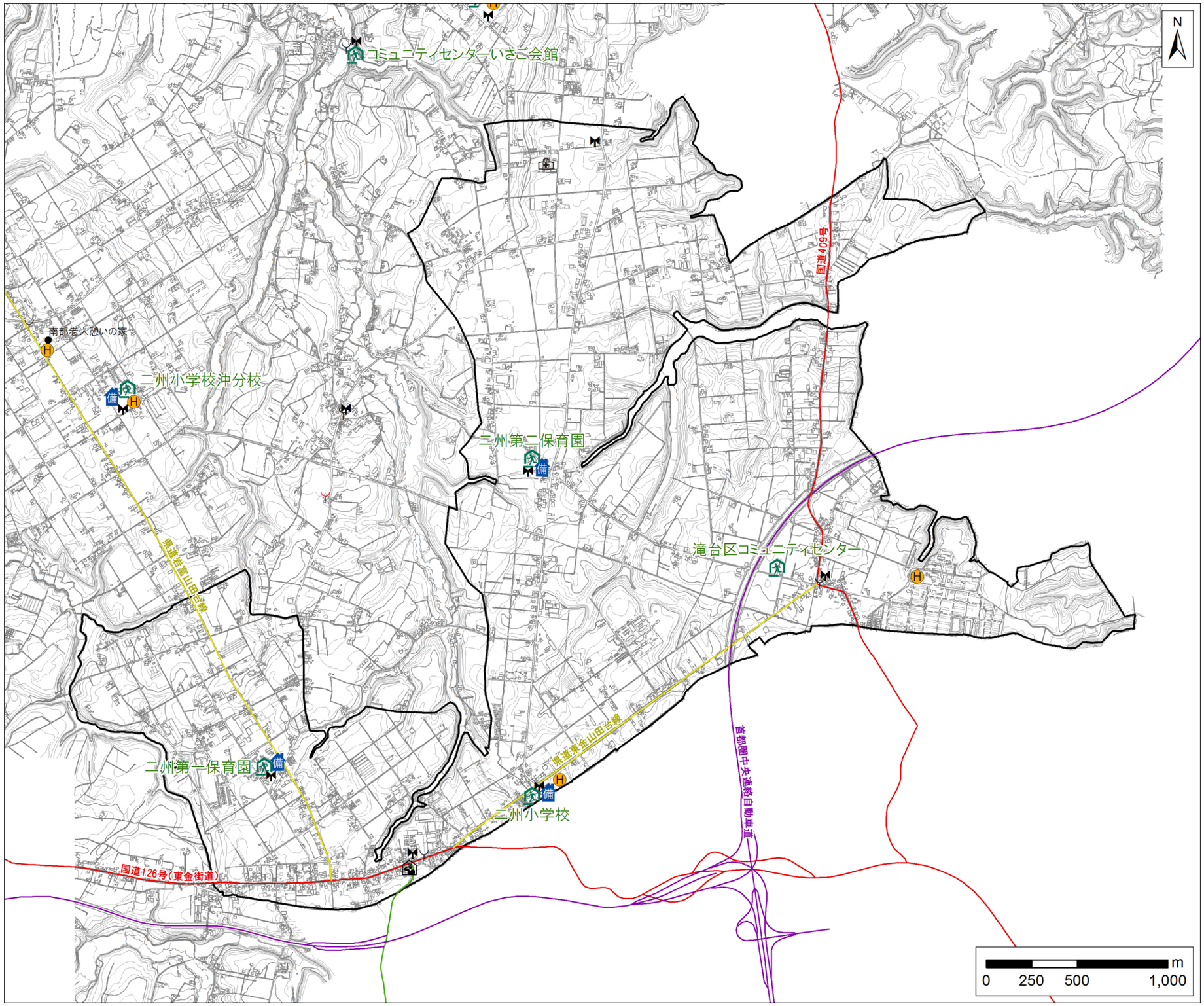


●色別標高図



防災関連施設位置図

地区名	二州小学校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ
臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

地区概況

地区名	二州小学校沖分校

●区名称

沖区

●地区の概況

市の南西部に位置し、大部分がローム台地である。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。

地区の中央を岩富山田台線が南北に通る。地区の多くは農地として利用されているが、台地上のミニ開発などが行われている。

●人口動態

総人口	1,430人	地区面積	4.4k㎡
世帯数	686世帯	人口密度	325人／k㎡
高齢単独世帯数	76世帯	世帯人口	2.1人／世帯

幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
（0～4歳）	（5～14歳）	（15～65歳）	（65～74歳）	（75歳～）	32.9%
22人	79人	859人	247人	223人	

●建物構成

木造建物（S25年以前）	木造建物（S26年～S56年）	木造建物（S57年以後）	非木造建物（S46年以前）	非木造建物（S47年～S56年）	非木造建物（S57年以後）
86棟	290棟	430棟	15棟	43棟	196棟

●防災関連施設

病院	-
消防 / 警察	-
幼稚園	-
協定避難所	-
防災備蓄倉庫	二州小学校沖分校
ヘリポート	二州小学校沖分校、南部老人憩いの家広場
自主防 / 消防団	- / 第9分団

●災害履歴（直近）

日付	災害	被害
平成22年12月3日	大雨	土砂流出
平成22年12月22日	大雨	土砂流出、道路冠水
平成23年6月13日	降雨	道路冠水
平成23年9月20日～21日	台風15号	道路冠水
平成25年11月1日	台風26号	道路冠水
平成28年8月16日～17日	台風7号	土砂流出
平成28年9月13日	台風13号	道路冠水

●地震被害予測結果（千葉県北西部直下地震）

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

	（市全体）
全壊	13棟	197棟
半壊	76棟	1,416棟

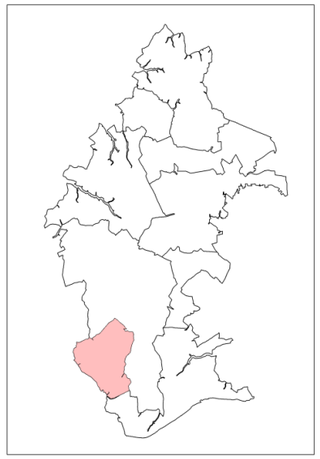
▼火災被害

焼失棟数	0棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			2人	30人
軽傷者			17人	310人
自力脱出困難者			1人	10人
避難者	避難所内	1日後	26人	470人
		最大	220人	4,000人
	避難所外	1日後	17人	310人
		最大	329人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○:安全性が高い △:条件つきで安全性がある ×:安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数(人)		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
二州小学校沖分校	○	○	343	9,414	○	○	○	○	

●災害特性・防災課題

地盤	浅い谷を盛土造成した宅地では、地盤災害の可能性がある。
土砂災害	土砂災害警戒区域は無いが、市境にある台地縁の崖地では土砂災害の注意が必要である。
水害	台地上の浅い谷などで排水不良による内水被害が発生している。流下量の増加が望まれる。
建物	旧耐震基準（昭和56年以前）の木造建物の割合が、全建物の約36%を占めており、強い揺れによる倒壊の可能性が高い。
人口	65歳以上人口が30%を超え、高齢化が進んでいる。

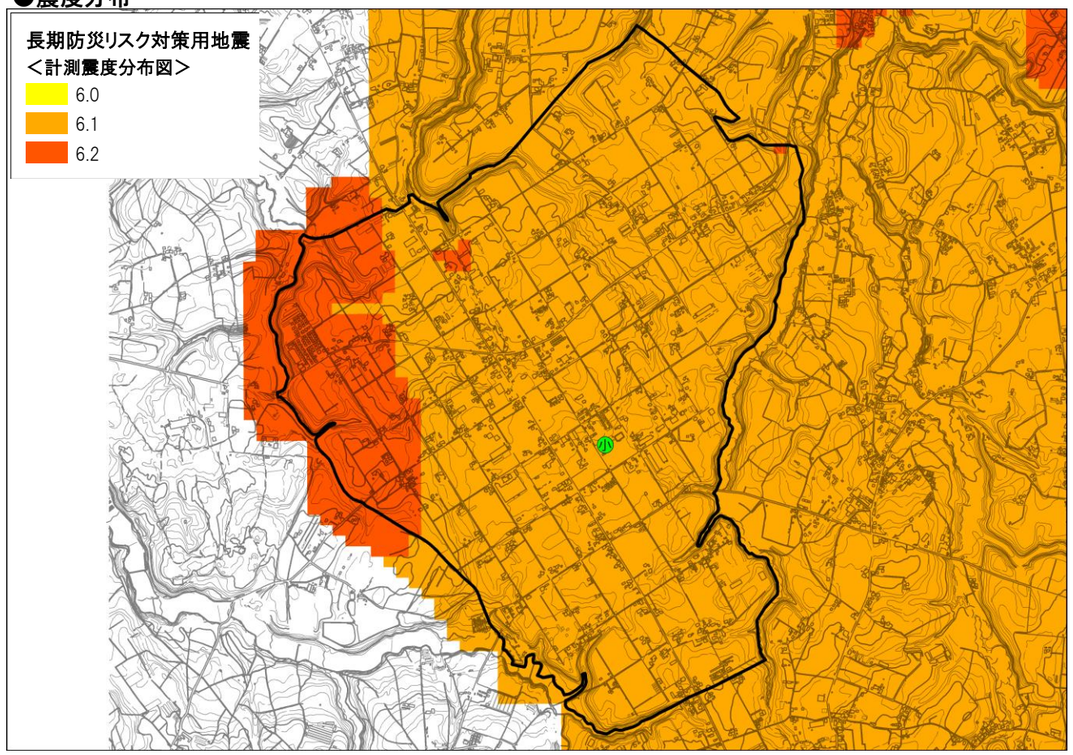
●地区の取組み

【2018年（平成30年）3月作成】

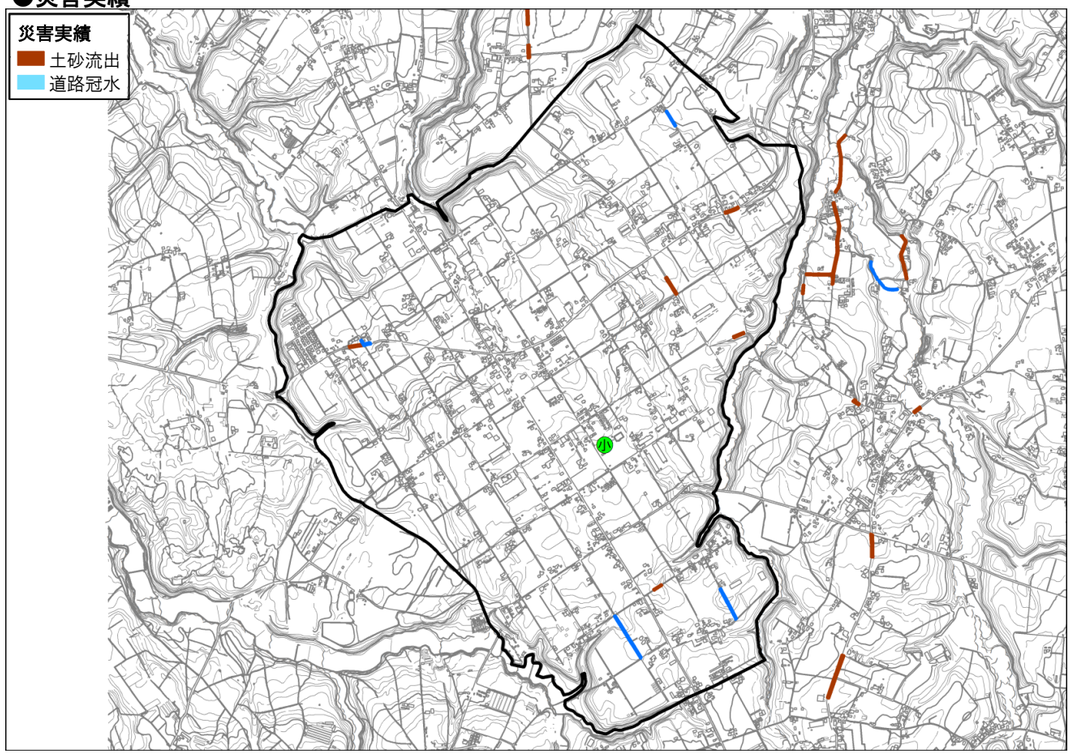
防災アセスメント調査

地区名	二州小学校沖分校

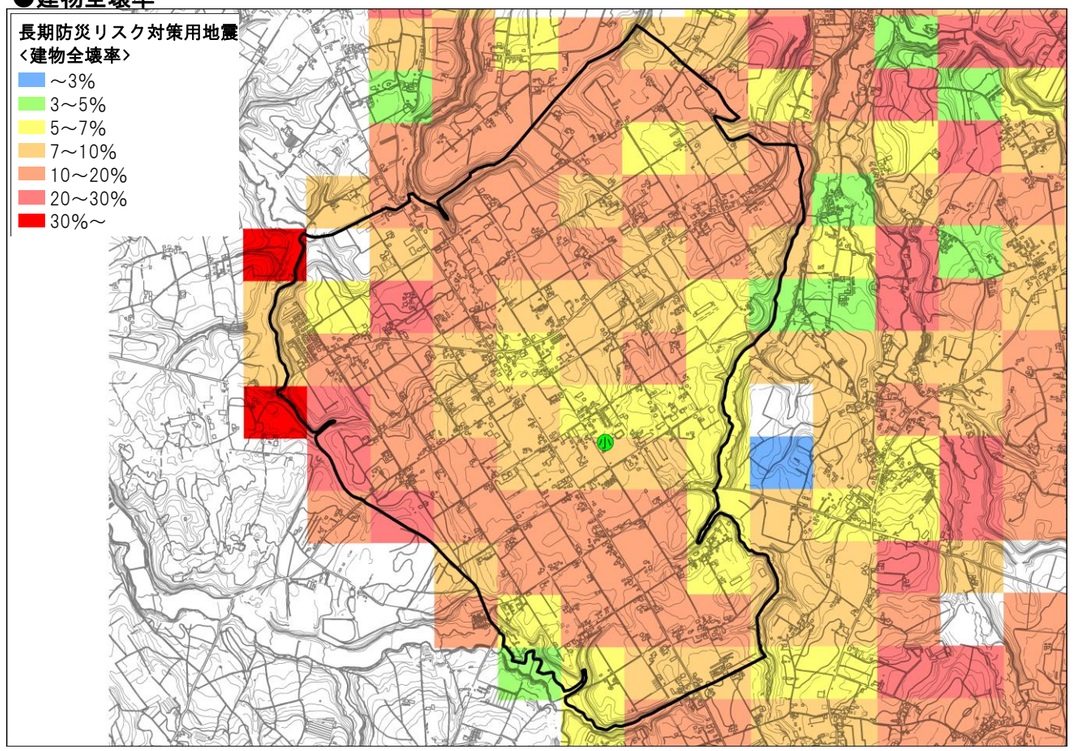
●震度分布



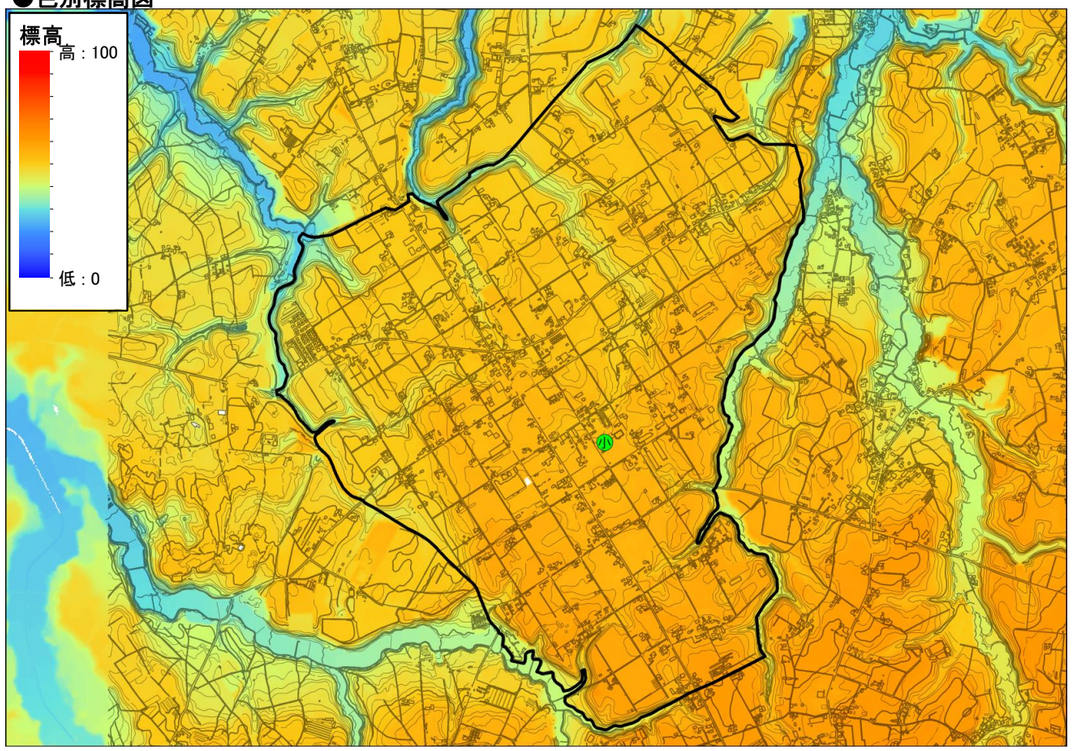
●災害実績



●建物全壊率

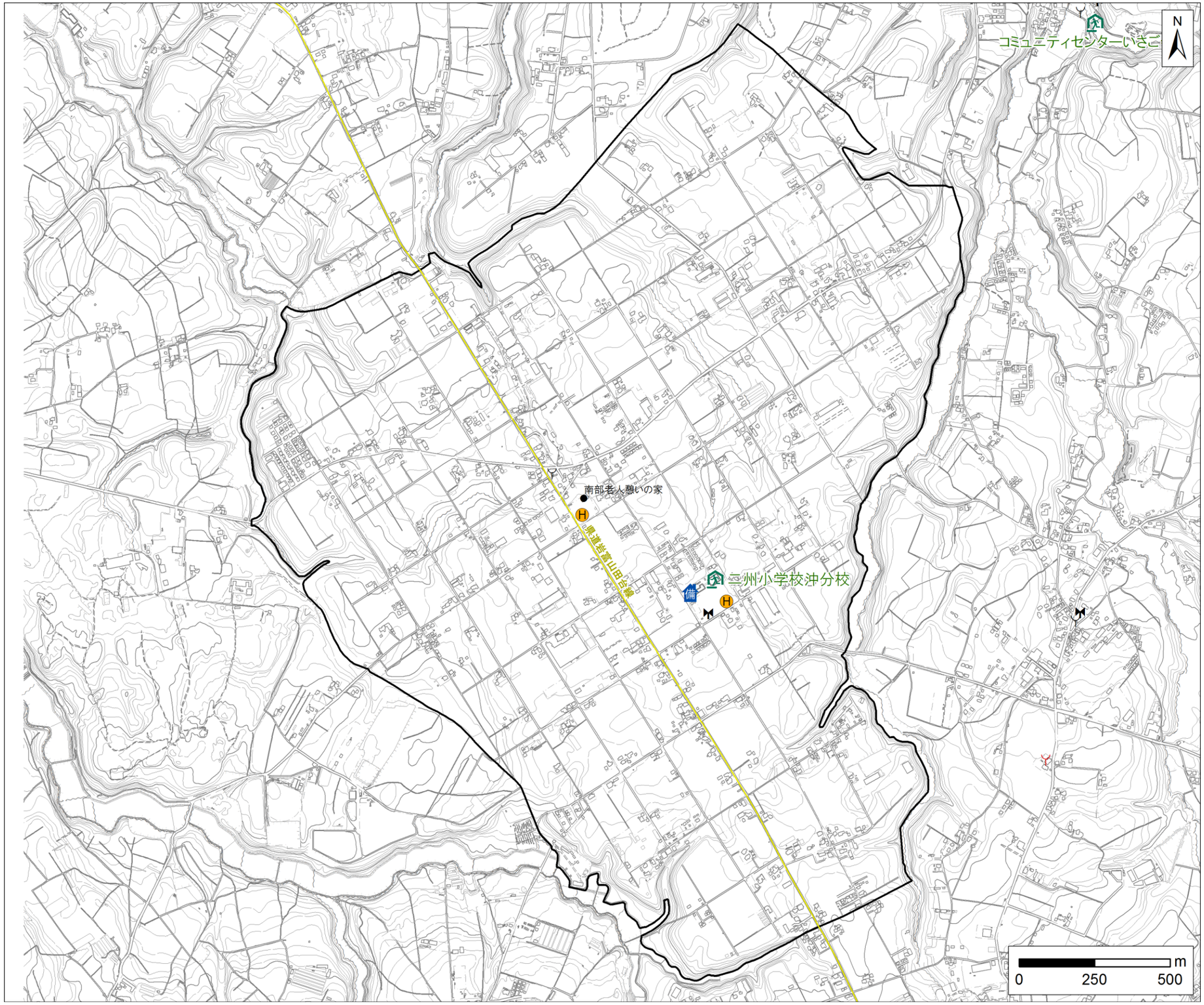


●色別標高図



防災関連施設位置図

地区名	二州小学校沖分校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ
臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

地区概況

地区名	川上小学校

●区名称

大谷流区、小谷流区、根古谷区、岡田区、用草区、勢田区、吉倉区、砂区、上砂区、(290～478、481の2、482の1、482の2、811～857番地を除く。)、希望ケ丘区、ガーデンタウン区

●地区の概況

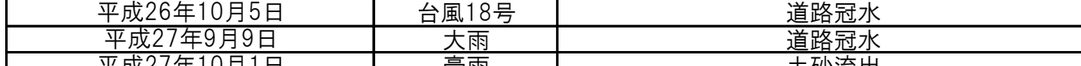
市の中央部に位置し、ローム台地と鹿島川水系が形成した谷底平野が分布する。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。ローム台地と谷底平野の境には、崖が形成されている。

北部には千葉川上八街線が東西に通る。地区の多くは農地として利用されているが、谷底平野の開発や台地上のミニ開発などが行われている。

●人口動態

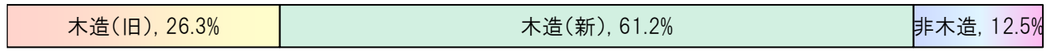
総人口	6,734人	地区面積	17.5k㎡
世帯数	2,844世帯	人口密度	384人／k㎡
高齢単独世帯数	228世帯	世帯人口	2.4人／世帯

幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
(0～4歳)	(5～14歳)	(15～65歳)	(65～74歳)	(75歳～)	27.0%
112人	478人	4,326人	1,059人	759人	



●建物構成

木造建物 (S25年以前)	木造建物 (S26年～S56年)	木造建物 (S57年以後)	非木造建物 (S46年以前)	非木造建物 (S47年～S56年)	非木造建物 (S57年以後)
350棟	663棟	2,352棟	30棟	66棟	384棟



●防災関連施設

病院	-
消防 / 警察	八街消防署八街南部出張所 / 吉倉交番
幼稚園	川上幼稚園
協定避難所	-
防災備蓄倉庫	川上小学校、八街南中学校
ヘリポート	川上小学校、八街南中学校
自主防 / 消防団	上砂、希望ケ丘、ガーデンタウン区 / 第17～19分団、第21～22分団、第24～26分団

●災害履歴（直近）

日付	災害	被害
平成26年10月5日	台風18号	道路冠水
平成27年9月9日	大雨	道路冠水
平成27年10月1日	豪雨	土砂流出
平成28年8月16日～17日	台風7号	土砂流出
平成28年8月29日～30日	台風10号	土砂流出
平成28年9月13日	台風13号	土砂流出、道路冠水
平成28年9月20日～21日	台風16号	土砂流出

●地震被害予測結果（千葉県北西部直下地震）

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

		(市全体)
全壊	35棟	197棟
半壊	213棟	1,416棟

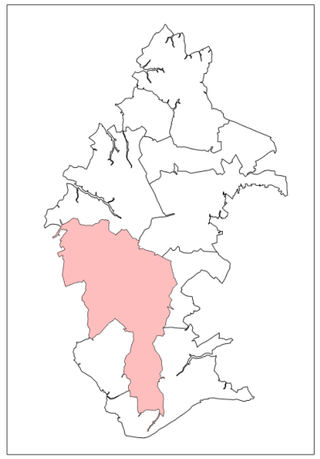
▼火災被害

焼失棟数	0棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			5人	30人
軽傷者			47人	310人
自力脱出困難者			2人	10人
避難者	避難所内	1日後	72人	470人
		最大	613人	4,000人
	避難所外	1日後	47人	310人
		最大	919人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○:安全性が高い △:条件つきで安全性がある ×:安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数(人)		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
川上小学校	○	○	990	10,077	○	○	○	○	
八街南中学校	○	○	1,170	16,669	○	○	○	○	
用草公民館	○	-	54	-	○	△	○	○	
コミュニティセンターいさご会館	○	-	51	-	○	○	○	○	

●災害特性・防災課題

地盤	北部の谷底平野や浅い谷の盛土造成地、台地と低地の境をなす崖地では、地盤災害の可能性がある。また、谷底平野では液状化の可能性が高い。
土砂災害	北部の台地と低地の境をなす崖地に、土砂災害警戒区域が分布しており、降雨時や地震時にはがけ崩れに注意が必要である。
水害	台地上の浅い谷などで排水不良による内水被害が発生している。流下量の増加が望まれる。
建物	旧耐震基準（昭和56年以前）の木造建物の割合が、全建物の約26%を占めており、強い揺れによる倒壊の可能性が高い。
人口	65歳以上人口が25%を超え、高齢化が進んでいる。

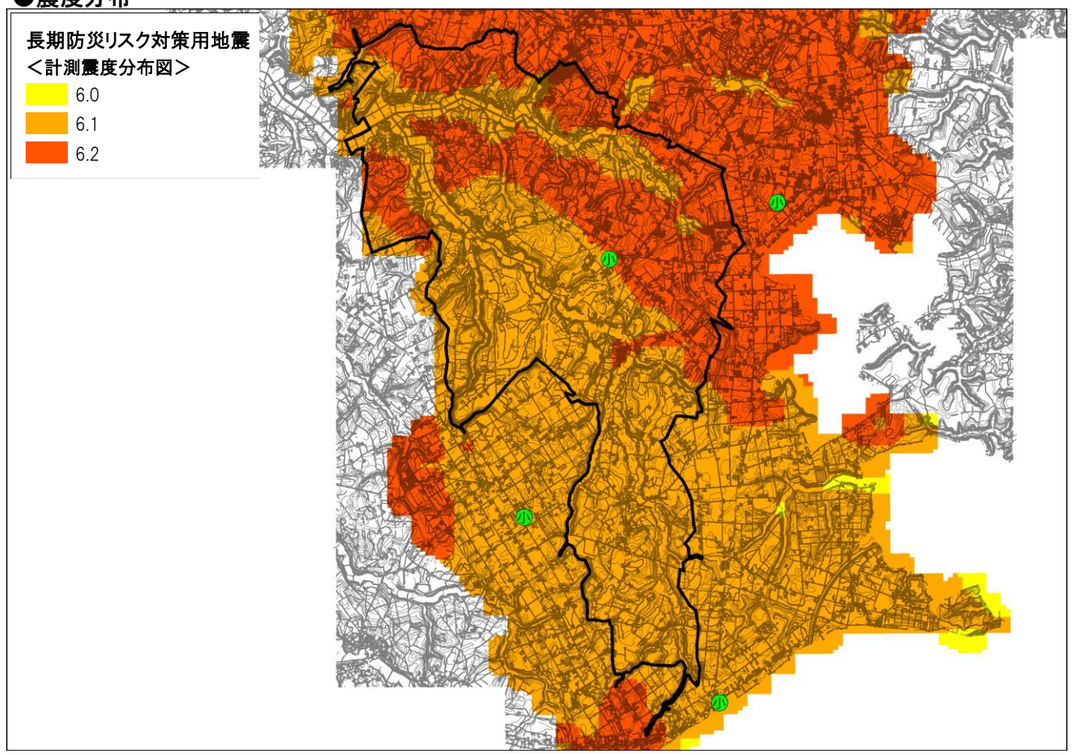
●地区の取組み

【2018年（平成30年）3月作成】

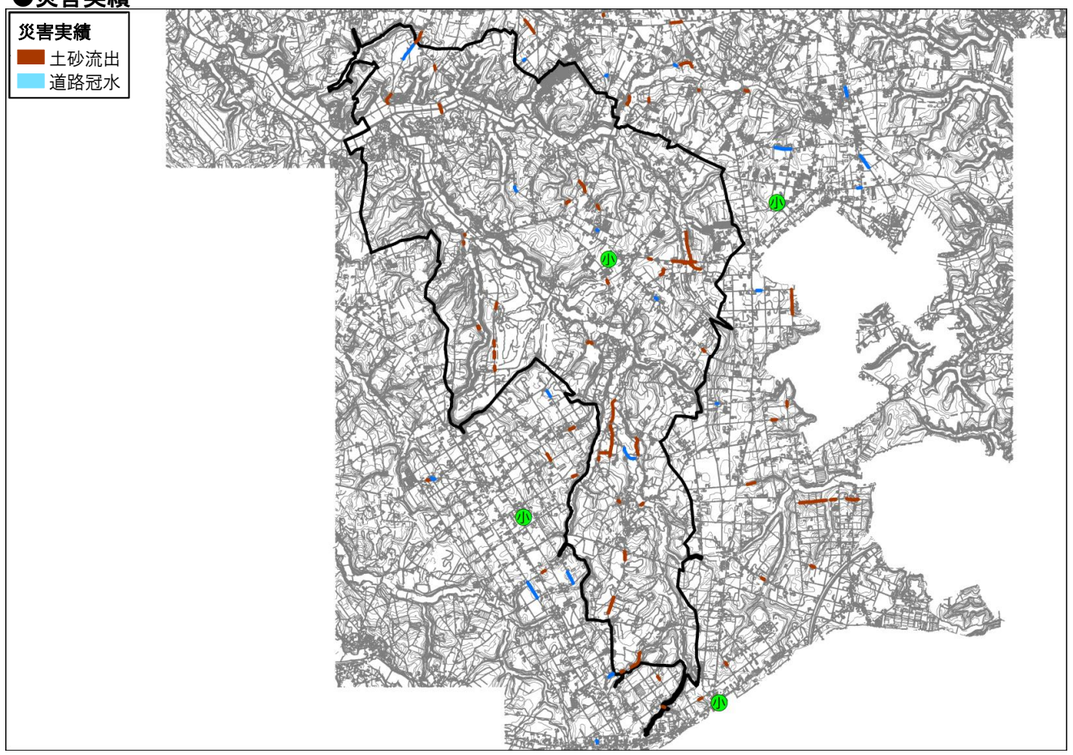
防災アセスメント調査

地区名	川上小学校

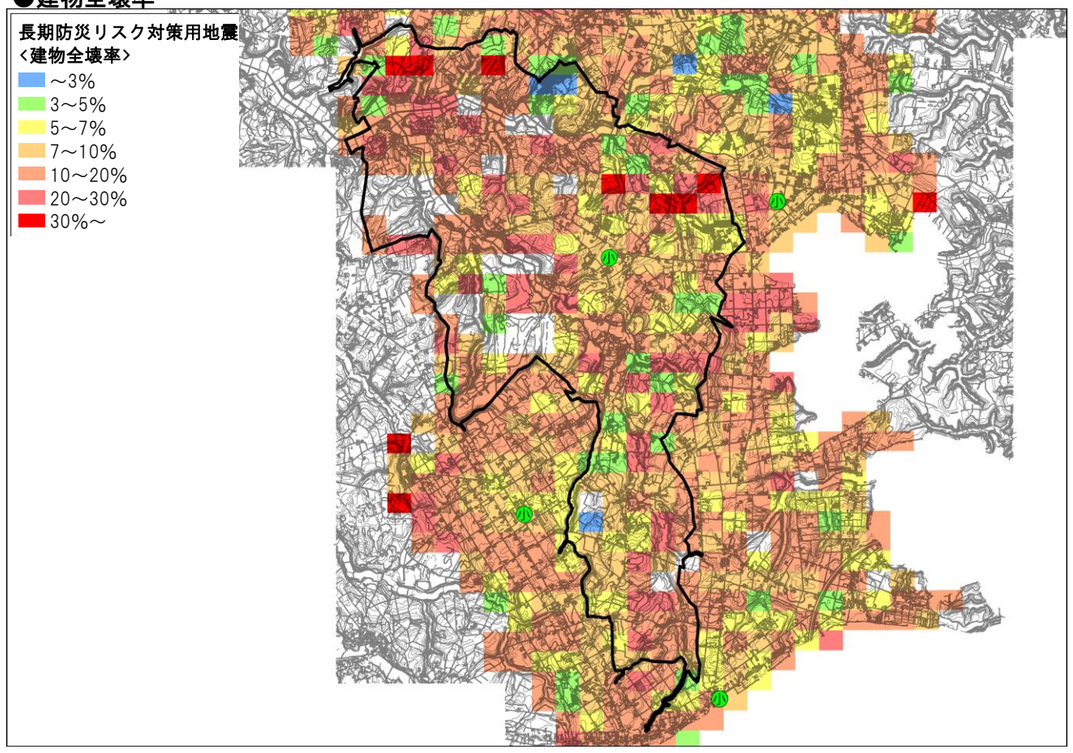
●震度分布



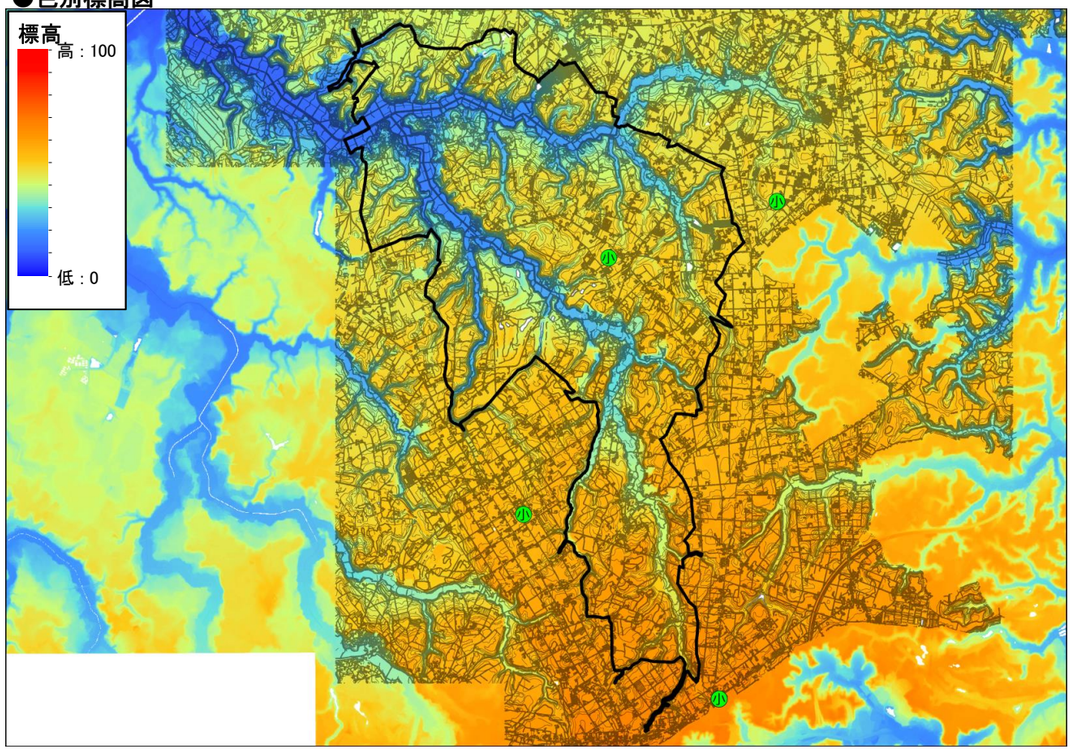
●災害実績



●建物全壊率

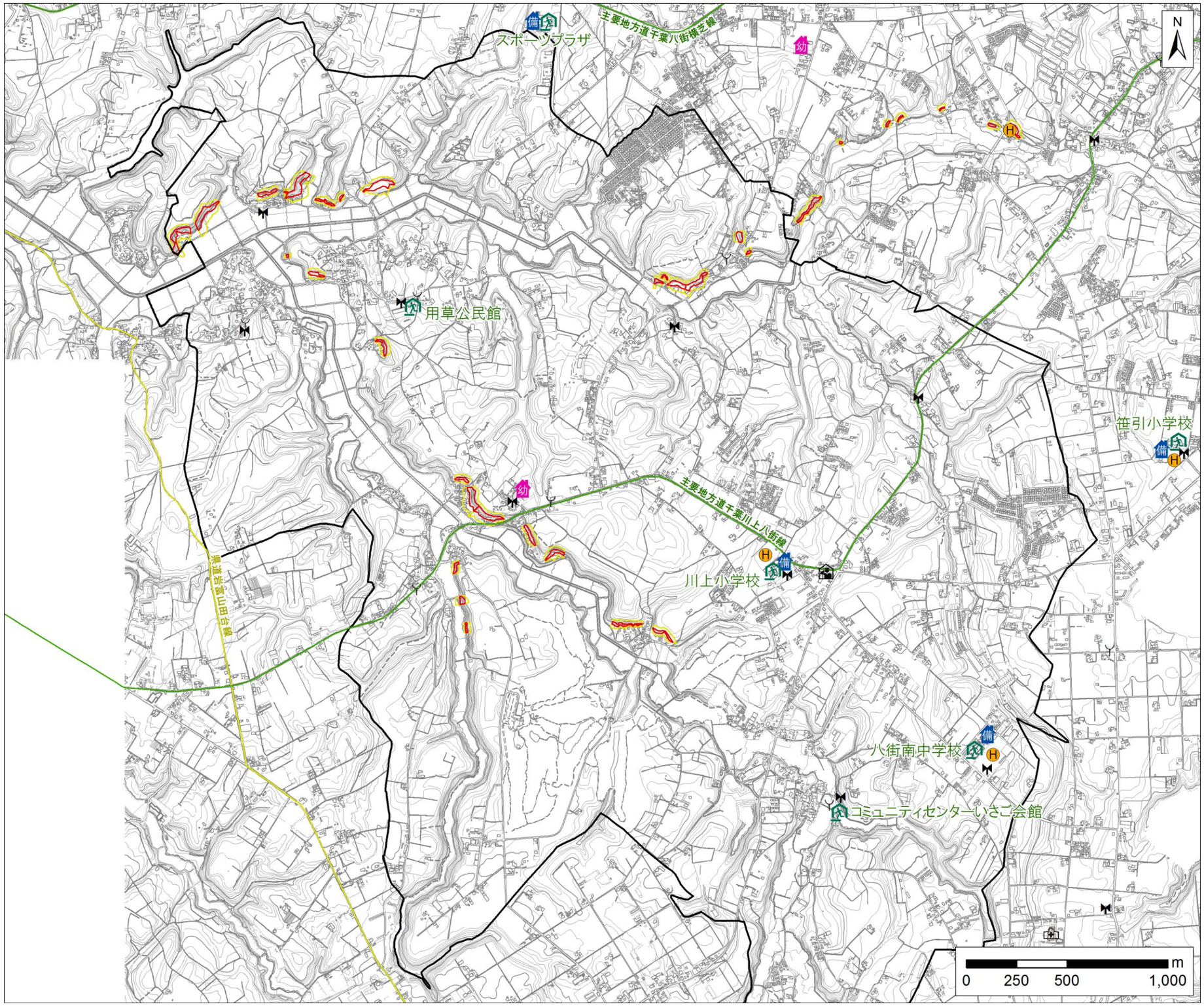


●色別標高図



防災関連施設位置図

地区名	川上小学校

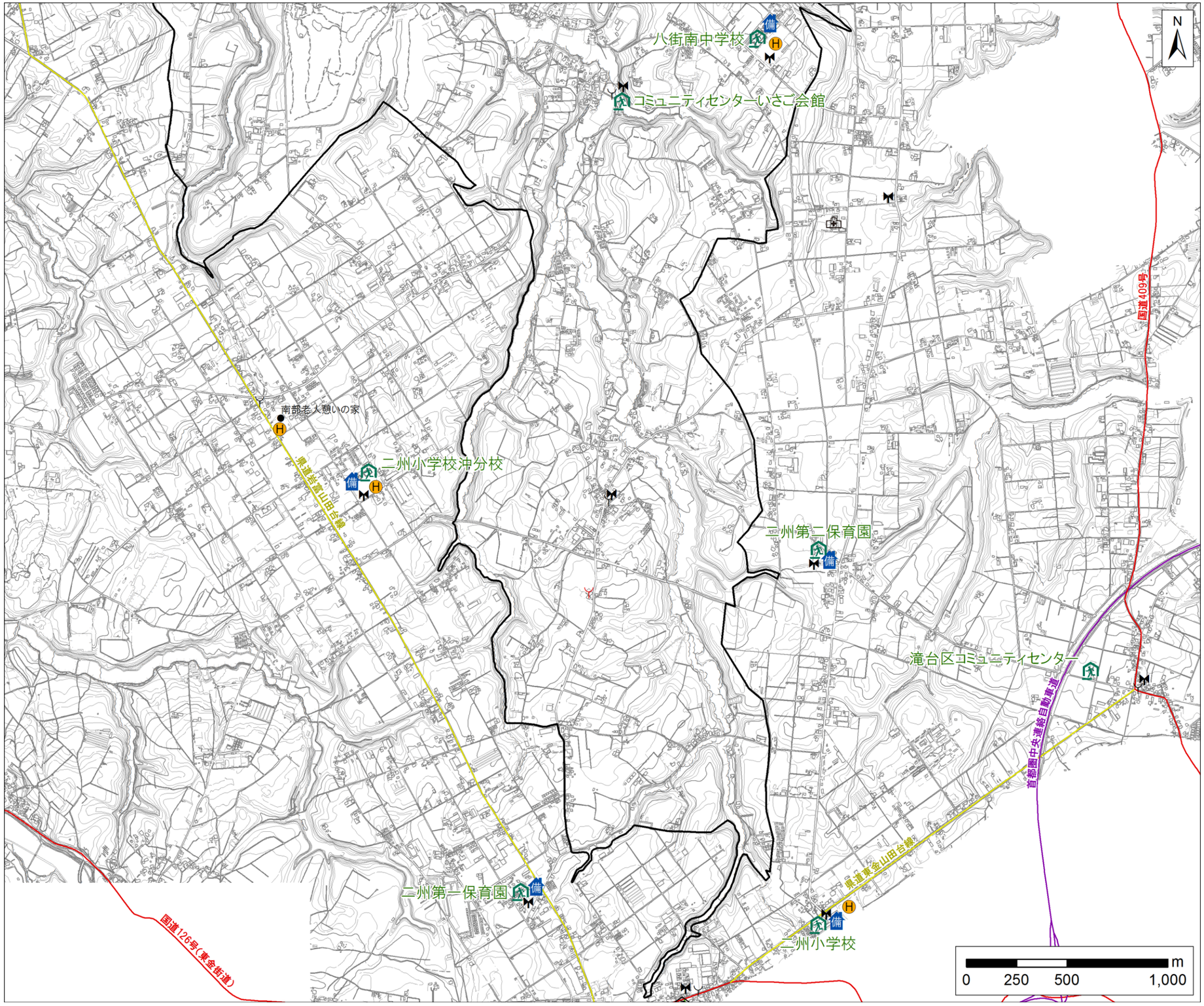


凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ
臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

防災関連施設位置図

地区名	川上小学校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ
臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道

地区概況

地区名	八街北小学校

●区名称

榎戸区、泉台区、みどり台区、真井原区（市道15008号線以北、氷川神社南側私道以北、市道15006号線以東の区域）

●地区の概況

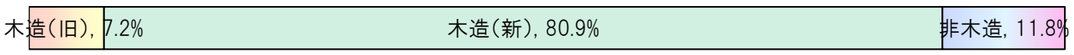
市の北部に位置し、ローム台地と台地を刻む谷底平野が分布する。ローム台地は概ね平坦な地形であるが、谷底平野の延長上に浅い谷が分布する。

西部をJR総武線と成東酒々井線が南北に通る。榎戸駅周辺をはじめ、地区全体で宅地化が進み、大規模に開発された住宅団地もある。

●人口動態

総人口	6,958人	地区面積	2.9k㎡
世帯数	3,035世帯	人口密度	2,363人／k㎡
高齢単独世帯数	211世帯	世帯人口	2.3人／世帯

幼年人口		生産人口	老年人口		65歳以上人口
（0～4歳）	（5～14歳）	（15～65歳）	（65～74歳）	（75歳～）	27.6%
169人	445人	4,426人	1,258人	660人	



●建物構成

木造建物（S25年以前）	木造建物（S26年～S56年）	木造建物（S57年以後）	非木造建物（S46年以前）	非木造建物（S47年～S56年）	非木造建物（S57年以後）
42棟	164棟	2,301棟	2棟	31棟	303棟

●防災関連施設

病院	榎戸クリニック、ひきたクリニック
消防 / 警察	- / 榎戸交番
幼稚園	八街泉幼稚園
協定避難所	-
防災備蓄倉庫	八街北小学校
ヘリポート	八街北小学校
自主防 / 消防団	榎戸区、泉台 / 第10分団

●災害履歴（直近）

日付	災害	被害
平成25年9月15日～16日	台風18号	土砂流出
平成25年11月1日	台風26号	土砂流出
平成26年10月5日	台風18号	土砂流出
平成28年8月16日～17日	台風7号	土砂流出
平成28年8月22日	台風9号	土砂流出
平成28年9月13日	台風13号	土砂流出
平成28年9月20日～21日	台風16号	土砂流出

●地震被害予測結果（千葉県北西部直下地震）

▼地震動

震度	震度6弱

▼建物被害

		（市全体）
全壊	2棟	197棟
半壊	30棟	1,416棟

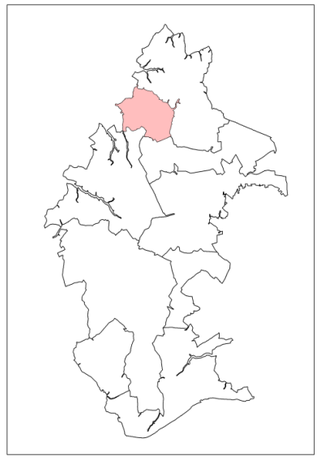
▼火災被害

焼失棟数	0棟	2棟

▼人的被害

死者			0人	0人
重傷者			0人	30人
軽傷者			6人	310人
自力脱出困難者			0人	10人
避難者	避難所内	1日後	9人	470人
		最大	77人	4,000人
	避難所外	1日後	6人	310人
		最大	116人	6,000人

●位置図



●避難所・避難場所

〔適性 ○：安全性が高い △：条件つきで安全性がある ×：安全性が低い〕

施設名	指定箇所		収容人数（人）		適性			特設公衆電話	備考
	屋内	屋外	屋内	屋外	水害	土砂	地震		
八街北小学校	○	○	846	6,508	△	○	○	○	

●災害特性・防災課題

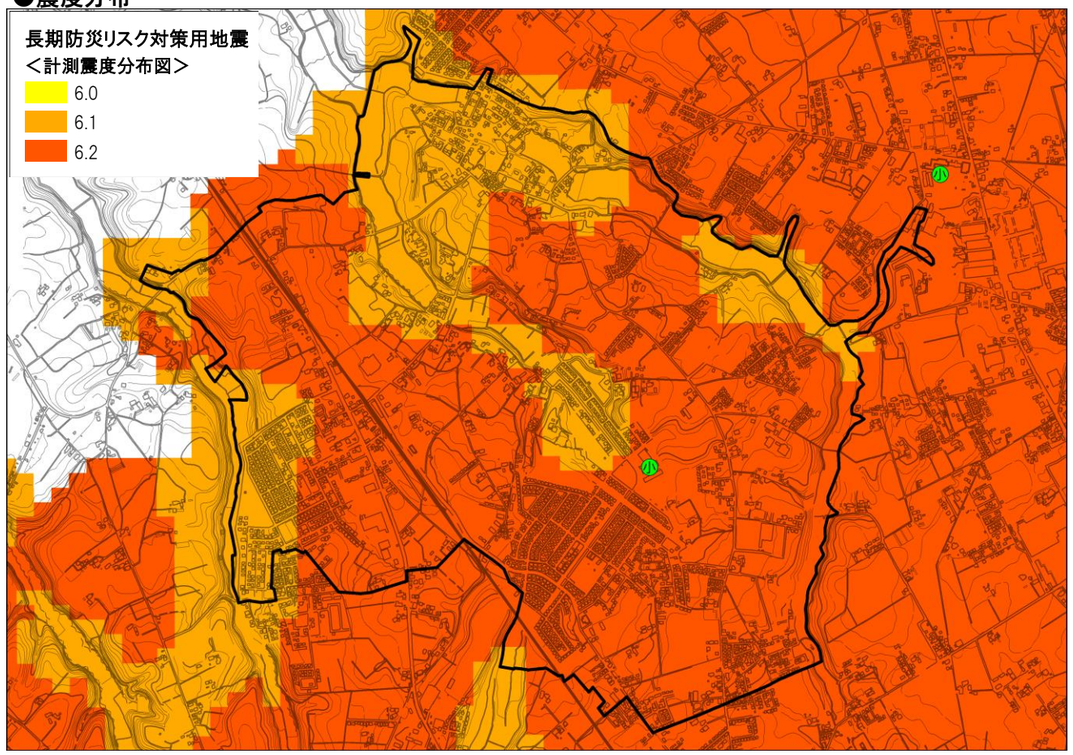
地盤	谷底平野や浅い谷の造成地では、地盤災害の可能性がある。また、原地形が谷底平野の造成地では、液状化の可能性が高い。
土砂災害	中央部の台地と低地の境をなす崖地に、土砂災害警戒区域が分布しており、降雨時や地震時にはがけ崩れに注意が必要である。
水害	近年、水害は発生していないが、盛土造成地などでは注意が必要である。
建物	旧耐震基準（昭和56年以前）の木造建物の割合が、全建物の約7%であり、比較的新しい建物が多い。
人口	65歳以上人口が25%を超え、高齢化が進んでいる。

●地区の取組み

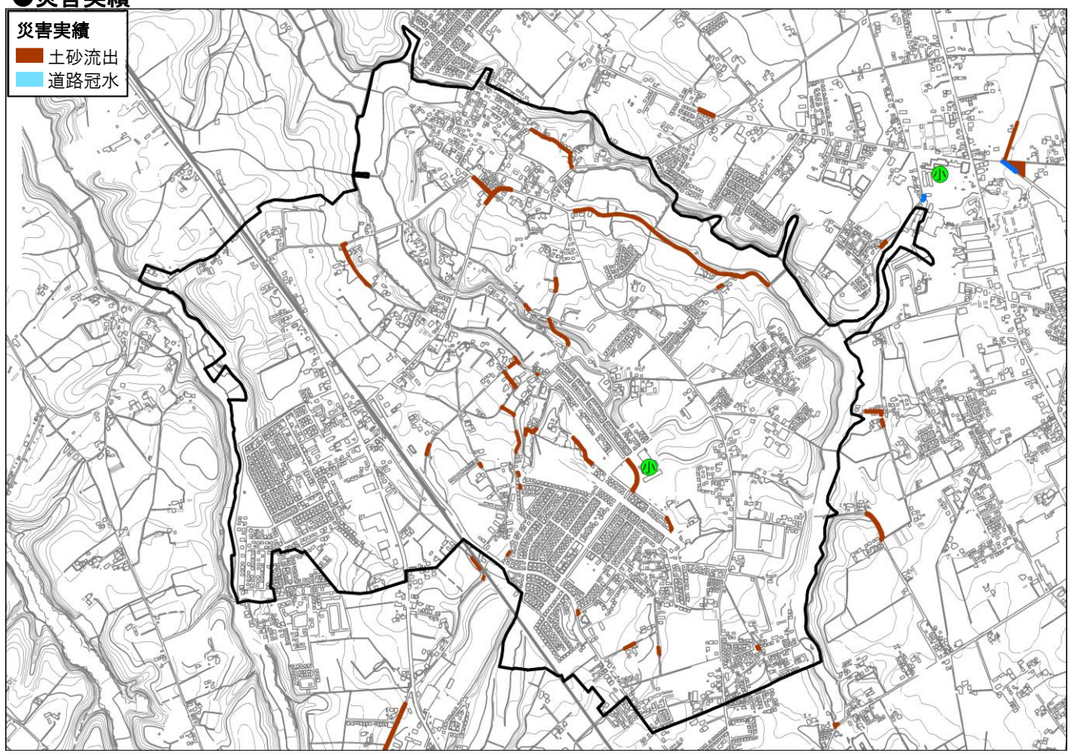
防災アセスメント調査

地区名	八街北小学校

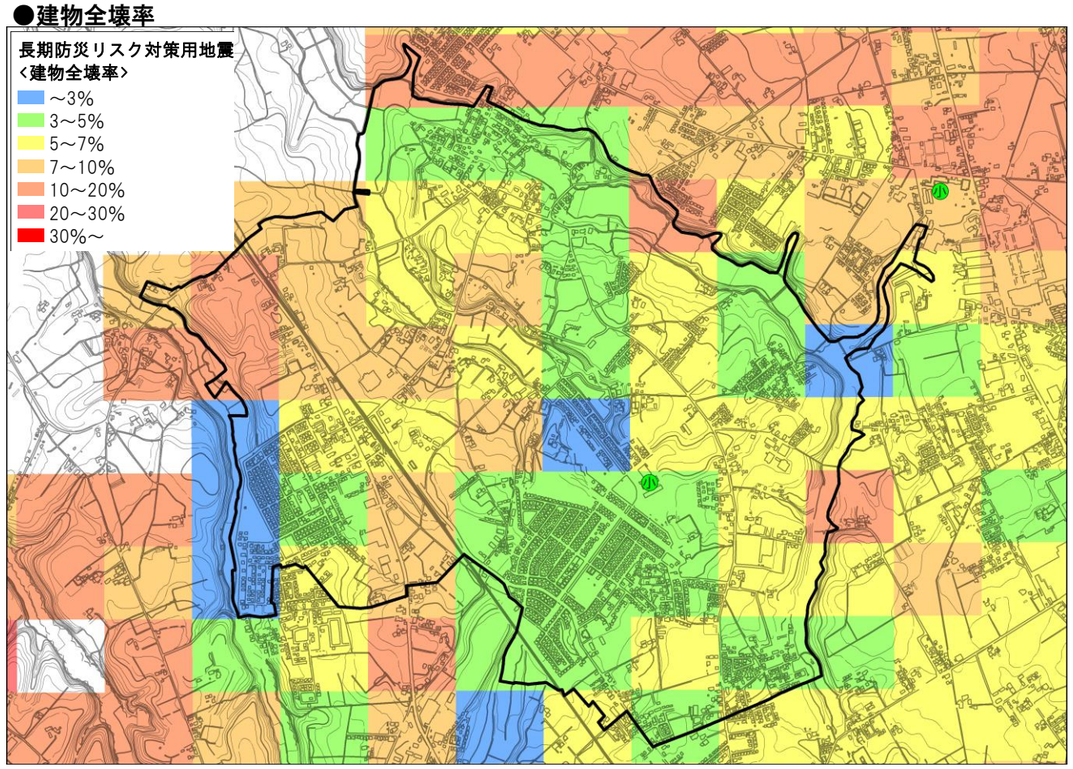
●震度分布



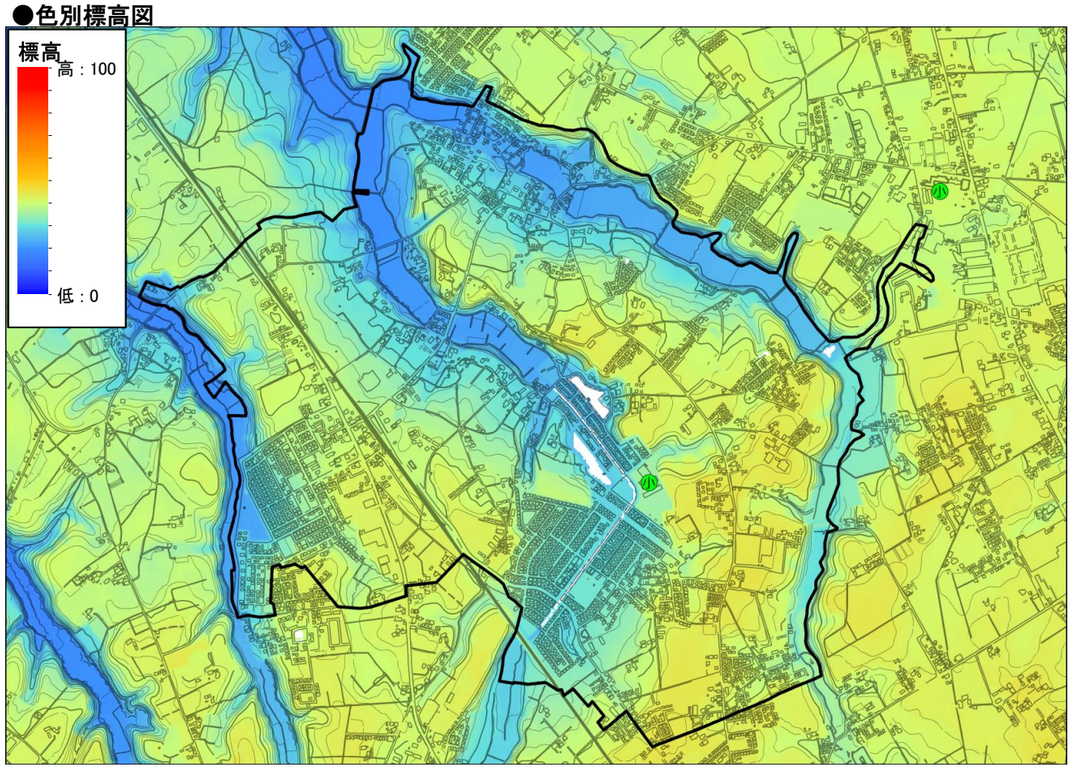
●災害実績



●建物全壊率

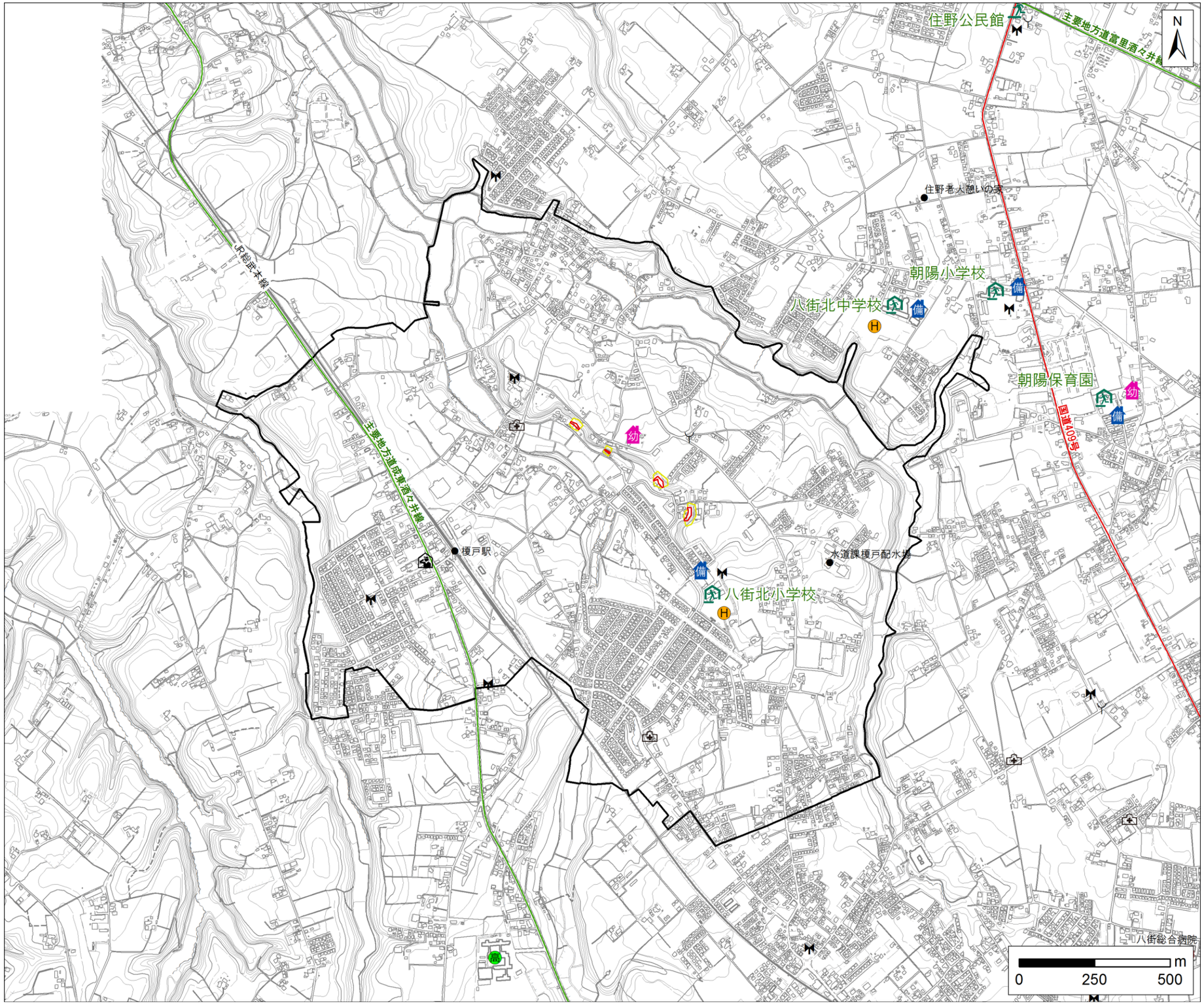


●色別標高図



防災関連施設位置図

地区名	八街北小学校



凡例

- 避難所兼避難場所
- 避難場所
- 救急医療機関
- 病院
- 高等学校
- 幼稚園
- 防災備蓄倉庫
- 警察
- 消防
- 消防団
- ドクターヘリ 臨時ヘリポート
- 防災行政無線
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 主要地方道(工事中)
- 県道